

【令和6年度評価】中項目ごとの検証・確認における論点整理等

自己評価の区分		判断の目安
Ⅳ	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
Ⅲ	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
Ⅱ	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
Ⅰ	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター

項目 No.	R6年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																											
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																										
01	2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保 長期的に安定した運営に必要な医療従事者等を確保するため、計画的・効果的な職員採用に努める。 また、働き方改革に向けた医師のタスク・シフト（シェア）を進めるため、看護師、コメディカル等の安定的な確保と適切な配置を目指すとともに、各種研修の受講を促進する。 3 医師、看護師、コメディカル等の人材育成の充実 【医師】 国内外先進病院への研修派遣により、優れた医師を養成する。 また、高度専門医療の水準の維持・向上のため、専門医や研修指導医等の取得に向けた研修体制の充実（各種学会や研修会参加支援等）を図る。 【看護師】 より水準の高い看護を提供するため、認定看護師や専門看護師、特定行為看護師等の資格取得又	2 医師、看護師、コメディカル等の医療従事者の確保 ・看護師の確保については、年度途中の退職者を見込み年度当初に67人、年度途中4人採用することで、長時間勤務やローテーション維持等についての改善を図るとともに、診療報酬の要件である7：1看護体制を上回る体制を確保できた。 ・定年退職した医師を9人再雇用することで、人員の確保に努めた。 ○医療従事者の確保状況 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常勤医師</td><td>182</td><td>185</td><td>188</td><td>193</td><td>196</td></tr> <tr> <td>常勤歯科医師</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr> <td>常勤看護師</td><td>691</td><td>720</td><td>719</td><td>741</td><td>728</td></tr> <tr> <td>常勤コメディカル</td><td>254</td><td>265</td><td>278</td><td>283</td><td>289</td></tr> <tr> <td>ドクターズアシスタント</td><td>55</td><td>61</td><td>55</td><td>55</td><td>55</td></tr> <tr> <td>看護補助職員</td><td>96</td><td>95</td><td>93</td><td>100</td><td>99</td></tr> </tbody> </table> ※年度末現在 3 医師、看護師、コメディカル等の人材育成の充実 【医師】 ・高度専門医療の水準の維持・向上のため、専門医や研修指導医等の取得に向けた研修体制の充実を図った。	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	常勤医師	182	185	188	193	196	常勤歯科医師	4	4	4	4	4	常勤看護師	691	720	719	741	728	常勤コメディカル	254	265	278	283	289	ドクターズアシスタント	55	61	55	55	55	看護補助職員	96	95	93	100	99	Ⅳ		
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																										
常勤医師	182	185	188	193	196																																										
常勤歯科医師	4	4	4	4	4																																										
常勤看護師	691	720	719	741	728																																										
常勤コメディカル	254	265	278	283	289																																										
ドクターズアシスタント	55	61	55	55	55																																										
看護補助職員	96	95	93	100	99																																										

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																																																																									
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																																																																								
	は認定看護管理者の資格取得を目指す看護師に対しては、中長期的に研修・講習に参加できる体制を引き続き確保する。また、特定行為看護師については、特定行為看護師指定研修機関として引き続き外科術後病棟管理領域パッケージを院内外の看護師に対して実施し、より高度な医療に対応できる人材を育成する。 ・2024年度 受講予定 特定行為看護師3人（急性期診療モデル1人、外科術後領域2人） 認定看護管理者9人（ファーストレベル4人、セカンドレベル4人、サードレベル1人） ・2024年度 資格試験予定 認定看護管理者1人 【コメディカル】 診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師等の医療技術者について、専門性の向上に向けた研修・講習会、タスク・シフト（シェア）に関する研修会への参加を支援し、高度医療に対する知識・技術を有する職員を養成する。 4 高度先端医療の推進 高度先端医療など新しい医療技術について研究及び研修を行うとともに、高齢化社会に向けたより低侵襲な治療を積極的に導入する。また、がんや小児の分野におけるゲノム医療を積極的に取り組み、遺伝子レベルで病態を把握することにより、個々の患者に合った最適な医療を効率的に提供する。 5 専門性を発揮したチーム医療の推進 医師・看護師・薬剤師のほか、コメディカル等	○医師の研修派遣・受入実績 単位：件 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td>派遣</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td>受入</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>2</td></tr></table> ○専門医や研修指導医等の取得に向けた研修、学会・セミナー等の派遣実績 単位：件 <table><tr><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td>563</td><td>730</td><td>817</td><td>748</td><td>726</td></tr></table> 【看護師】 ・認定看護師等長期研修5カ年計画に基づき、計画的に認定看護師や専門看護師の資格取得のための研修・講習に参加できる体制を確保した。また、看護師特定行為研修指定研修機関として、当センターの看護師に加え、外部の看護師も受け入れるなど、特定行為看護師を育成する役割を果たした。 ○認定看護師等資格取得者在籍状況 単位：人 <table><tr><th colspan="2">項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td rowspan="14">認定</td><td>がん化学療法</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>がん性疼痛</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>感染管理</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>救急看護</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>小児救急</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>摂食・嚥下障害</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>皮膚・排泄ケア</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>新生児集中ケア</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>クリティカルケア</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>糖尿病看護</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>がん放射線療法看護</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>乳がん看護</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>認定看護管理者</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>慢性心不全</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table>	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	派遣	2	1	2	3	2	受入	3	3	4	5	2	R2	R3	R4	R5	R6	563	730	817	748	726	項目／年度		R2	R3	R4	R5	R6	認定	がん化学療法	3	3	3	3	3	がん性疼痛	2	2	2	1	1	感染管理	3	3	4	4	3	救急看護	2	2	2	2	2	小児救急	1	1	1	1	1	摂食・嚥下障害	1	1	2	2	2	皮膚・排泄ケア	3	3	2	1	1	新生児集中ケア	2	1	2	2	2	クリティカルケア	2	2	2	3	3	糖尿病看護	1	1	0	0	0	がん放射線療法看護	1	1	1	1	1	乳がん看護	1	1	1	1	1	認定看護管理者	2	3	3	3	3	慢性心不全	1	1	1	1	1			
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																																								
派遣	2	1	2	3	2																																																																																																																								
受入	3	3	4	5	2																																																																																																																								
R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																																									
563	730	817	748	726																																																																																																																									
項目／年度		R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																																							
認定	がん化学療法	3	3	3	3	3																																																																																																																							
	がん性疼痛	2	2	2	1	1																																																																																																																							
	感染管理	3	3	4	4	3																																																																																																																							
	救急看護	2	2	2	2	2																																																																																																																							
	小児救急	1	1	1	1	1																																																																																																																							
	摂食・嚥下障害	1	1	2	2	2																																																																																																																							
	皮膚・排泄ケア	3	3	2	1	1																																																																																																																							
	新生児集中ケア	2	1	2	2	2																																																																																																																							
	クリティカルケア	2	2	2	3	3																																																																																																																							
	糖尿病看護	1	1	0	0	0																																																																																																																							
	がん放射線療法看護	1	1	1	1	1																																																																																																																							
	乳がん看護	1	1	1	1	1																																																																																																																							
	認定看護管理者	2	3	3	3	3																																																																																																																							
	慢性心不全	1	1	1	1	1																																																																																																																							

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																																																																																																																		
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案	意見																																																																																																																
	の専門的知識を有した医療従事者が、医療ニーズに合わせたより質の高い医療を提供するために協働及び連携し、情報の共有化を行う。 また、チーム医療を進める上で、医療従事者は専門性の高い知識や技術を習得し、ガイドラインやプロトコル等を活用した治療の標準化の浸透を図る。 6 ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）等の活用 準夜帯や深夜帯における放射線専門医による画像コンサルテーションを引き続き実施するとともに、画像診断や内視鏡検査等におけるICTやAIの動向を注視し、活用を推進することにより、医師の負担軽減を図り、より安全かつ質の高い医療を提供する。 国の医療DX推進の施策に示されている電子処方箋について、2024年度末までに運用を開始する。また、業務の負担軽減を図るため、中央検査部に検体搬送用ロボットを導入する。 7 入退院支援の充実 患者の状態や社会的背景に応じて、入院前から退院を見据えて患者が安心して過ごせるよう多職種により支援する総合サポートセンターを中心に、入退院支援の充実を図る。入院時支援の対象診療科については、現在支援中の13診療科に加え、徐々に診療科を拡大し、更なる充実を図る。 総合サポートセンターで対面で行っている入院患者への説明について、動画で患者へ提供できる環境を整備し、患者の待ち時間の有効活用及び職員の業務改善を推進する。	<table><tr><td rowspan="5">計</td><td>緩和ケア</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>認知症</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>脳卒中リハビリテーション</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>手術看護</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>精神科看護</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>31</td><td>32</td><td>33</td><td>32</td><td>31</td></tr><tr><td rowspan="2">専門</td><td>小児看護</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>がん看護</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td rowspan="6">特定行為</td><td>創傷管理モデル</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>術中麻酔管理モデル</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>外科術後管理領域</td><td>0</td><td>2</td><td>6</td><td>9</td><td>9</td></tr><tr><td>呼吸関連・動脈血ガス関連</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>クリティカル</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>栄養及び水分関連</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>3</td><td>6</td><td>11</td><td>15</td><td>18</td></tr><tr><td></td><td>認定遺伝カウンセラー</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>37</td><td>42</td><td>47</td><td>51</td><td>52</td></tr></table>	計	緩和ケア	1	1	1	1	1	認知症	2	2	2	2	2	脳卒中リハビリテーション	1	1	1	1	1	手術看護	1	2	2	2	2	精神科看護	1	1	1	1	1	計		31	32	33	32	31	専門	小児看護	2	2	2	2	1	がん看護	1	1	0	1	1	計		3	3	2	3	2	特定行為	創傷管理モデル	1	1	1	1	1	術中麻酔管理モデル	2	3	4	5	5	外科術後管理領域	0	2	6	9	9	呼吸関連・動脈血ガス関連					1	クリティカル					1	栄養及び水分関連					1	計		3	6	11	15	18		認定遺伝カウンセラー	0	1	1	1	1		合計	37	42	47	51	52			
計	緩和ケア	1		1	1	1	1																																																																																																																		
	認知症	2		2	2	2	2																																																																																																																		
	脳卒中リハビリテーション	1		1	1	1	1																																																																																																																		
	手術看護	1		2	2	2	2																																																																																																																		
	精神科看護	1	1	1	1	1																																																																																																																			
計		31	32	33	32	31																																																																																																																			
専門	小児看護	2	2	2	2	1																																																																																																																			
	がん看護	1	1	0	1	1																																																																																																																			
計		3	3	2	3	2																																																																																																																			
特定行為	創傷管理モデル	1	1	1	1	1																																																																																																																			
	術中麻酔管理モデル	2	3	4	5	5																																																																																																																			
	外科術後管理領域	0	2	6	9	9																																																																																																																			
	呼吸関連・動脈血ガス関連					1																																																																																																																			
	クリティカル					1																																																																																																																			
	栄養及び水分関連					1																																																																																																																			
計		3	6	11	15	18																																																																																																																			
	認定遺伝カウンセラー	0	1	1	1	1																																																																																																																			
	合計	37	42	47	51	52																																																																																																																			

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																		
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																	
		○研修実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th colspan="5">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">認定看護師</td> <td colspan="5"> 【長期】 ・ NP（診療看護師） </td> </tr> <tr> <td colspan="5"> 【短期】 単位：人 </td> </tr> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理者（1st）</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理者（2nd）</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理者（3rd）</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>医療安全研修</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>		項 目	内 容					認定看護師	【長期】 ・ NP（診療看護師）					【短期】 単位：人						R2	R3	R4	R5	R6	認定看護管理者（1st）	0	4	2	8	8	認定看護管理者（2nd）	0	1	3	0	3	認定看護管理者（3rd）	0	1	0	1	1		医療安全研修	2	3	4	2	4			
項 目	内 容																																																					
認定看護師	【長期】 ・ NP（診療看護師）																																																					
	【短期】 単位：人																																																					
		R2	R3	R4	R5	R6																																																
	認定看護管理者（1st）	0	4	2	8	8																																																
	認定看護管理者（2nd）	0	1	3	0	3																																																
	認定看護管理者（3rd）	0	1	0	1	1																																																
	医療安全研修	2	3	4	2	4																																																
		学会等参加 ・ 日本看護学会 ・ 日本看護協会研修 ・ 岐阜県看護協会研修 ・ 研修会、セミナー ・ その他 看護学会等 <table border="1"> <thead> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> <td>R6</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加延べ数</td> <td>270</td> <td>224</td> <td>402</td> <td>163</td> <td>484</td> </tr> </tbody> </table>			R2	R3	R4	R5	R6	参加延べ数	270	224	402	163	484																																							
	R2	R3	R4	R5	R6																																																	
参加延べ数	270	224	402	163	484																																																	
		【コメディカル】 ・ 診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師等の医療技術者について、専門性の向上に向けた研修・講習会への参加を支援し、高度医療に対する知識・技術を有する職員を養成した。 ○専門研修への参加状況 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師</td> <td>246</td> <td>298</td> <td>300</td> <td>284</td> <td>274</td> </tr> </tbody> </table>		項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	薬剤師	246	298	300	284	274																																							
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																	
薬剤師	246	298	300	284	274																																																	

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価						評価委員会の検証																																																		
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）						自己 評価	評価 提案	意見																																																
		臨床検査 技師	中央検査部	32	37	100	128	162																																																		
			病理部	20	30	38	41	55																																																		
		臨床工学技士		4	9	12	27	23																																																		
		リハビリ技師		42	31	52	53	55																																																		
		管理栄養士		2	3	5	10	10																																																		
		放射線技師		52	112	161	202	267																																																		
		合計		398	520	668	745	846																																																		
		○主な専門研修・講習会等																																																								
		【中央放射線部】 ・日本放射線技術学会 ・全国自治体病院放射線部会研修会 ・日本放射線治療セミナー ・日本核医学学会 ・日本磁気共鳴医学会 ・医学物理士ミニマム講習会 ・診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会 ・業務拡大に伴う統一講習会 ・PET 研修セミナー ・医療安全管理者養成研修会 ・画像等手術支援認定講習会																																																								
		※主な資格取得者数（年度末） 単位：人																																																								
		<table><tr><td>資格名／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>アドバンス診療放射線技師</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>放射線被曝相談員</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>4</td></tr><tr><td>X線CT 認定技師</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>7</td><td>6</td></tr><tr><td>放射線機器管理士</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td><td>11</td><td>12</td></tr><tr><td>放射線管理士</td><td>0</td><td>4</td><td>9</td><td>15</td><td>16</td></tr><tr><td>医療情報技師</td><td>－</td><td>－</td><td>1</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>検診マンモグラフィ</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td></tr></table>									資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6	アドバンス診療放射線技師	3	4	5	5	6	放射線被曝相談員	1	1	1	2	4	X線CT 認定技師	5	5	5	7	6	放射線機器管理士	3	3	5	11	12	放射線管理士	0	4	9	15	16	医療情報技師	－	－	1	4	4	検診マンモグラフィ	5	6	7	7	7
資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																					
アドバンス診療放射線技師	3	4	5	5	6																																																					
放射線被曝相談員	1	1	1	2	4																																																					
X線CT 認定技師	5	5	5	7	6																																																					
放射線機器管理士	3	3	5	11	12																																																					
放射線管理士	0	4	9	15	16																																																					
医療情報技師	－	－	1	4	4																																																					
検診マンモグラフィ	5	6	7	7	7																																																					

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																														
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案	意見																												
		<table><tr><td>撮影診療放射線技師</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>第 1 種放射線取扱主任者</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>救急撮影認定技師</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>画像等手術支援認定診療放射線技師</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>医療画像情報精度管理士</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>2</td><td>2</td></tr></table>	撮影診療放射線技師						第 1 種放射線取扱主任者	2	3	4	5	5	救急撮影認定技師	2	3	3	4	4	画像等手術支援認定診療放射線技師	-	-	-	2	2	医療画像情報精度管理士	-	-	-	2	2					
撮影診療放射線技師																																					
第 1 種放射線取扱主任者	2	3	4	5	5																																
救急撮影認定技師	2	3	3	4	4																																
画像等手術支援認定診療放射線技師	-	-	-	2	2																																
医療画像情報精度管理士	-	-	-	2	2																																
		※令和 6 年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・アドバンス診療放射線技師 1 名 ・放射線被曝相談員 2 名 ・放射線機器管理士 1 名 ・放射線管理士 1 名																																			
		【中央検査部】 ・日本臨床衛生検査技師会 ・日本超音波医学会 ・日本超音波検査学会 ・日本臨床微生物学会 ・日本臨床検査医学会 ・日本輸血・細胞治療学会 ・日本心エコー図学会 ・日本検査血液学会 ・岐阜県病院協会医学会 ・タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会 ・病院中堅職員育成研修 ・日本臨床神経生理学会 ・日本臨床一般検査学会 ・日本医療検査科学会 ・岐阜県医学検査学会																																			
		※主な資格取得者数（年度末） <table><tr><td>資格名／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>超音波検査士（循環器）</td><td>8</td><td>8</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr></table>					資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6	超音波検査士（循環器）	8	8	7	8	9																			
資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																
超音波検査士（循環器）	8	8	7	8	9																																

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証			
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案	意見	
		超音波検査士（消化器）	10	13	10	11	11			
		超音波検査士（体表臓器）	3	4	3	3	4			
		超音波検査士（泌尿器）	1	1	0	0	0			
		超音波検査士（産婦人科）	1	1	1	0	0			
		超音波検査士（血管）	1	1	1	2	2			
		血管診療技師	1	1	1	2	2			
		乳房超音波技術試験	－	－	－	－	2			
		JHRS 認定心電図専門士	5	5	3	2	2			
		緊急臨床検査士	10	10	12	14	17			
		認定血液検査技師	2	2	3	3	4			
		認定臨床微生物検査技師	1	2	2	2	3			
		認定輸血検査技師	1	1	1	1	1			
		認定心電図検査技師	2	2	2	2	2			
		認定一般検査技師	1	1	1	2	1			
		心臓リハビリテーション 指導士	2	2	2	2	2			
		2 級臨床検査士（微生物）	3	5	6	6	7			
		2 級臨床検査士（循環器）	3	3	2	2	2			
		2 級臨床検査士（神経生 理）	－	－	－	－	1			
		2 級臨床検査士（免疫血 清）	0	0	1	1	1			
		感染制御認定臨床微生物 検査技師（ICMT）	1	2	2	2	3			
		医療安全管理者	1	2	1	3	3			
		臨床検査技師臨地実習指 導者	0	1	1	2	2			
		タスク・シフト／シェアに 関する厚生労働大臣認定	0	0	30	49	51			
		POCT 測定認定士	0	0	1	1	1			
		遺伝子分析化学認定士	1	1	1	1	1			

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																																																																		
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案	意見																																																																
		<table><tr><td>日本糖尿病療養指導士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>有機溶剤作業主任者</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>特定化学物質及び四アル キル鉛等作業主任者</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>3</td></tr><tr><td>岐阜県肝炎医療コーディネーター</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>16</td></tr><tr><td>精度管理責任者</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>臨地実習指導者</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>品質管理検定</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>心電図検定 1 級</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td></tr><tr><td>心電図検定 2 級</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>心電図検定 3 級</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>ゆうパックによる検体送 付するための研修会</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>7</td></tr></table>	日本糖尿病療養指導士	1	1	1	1	1	有機溶剤作業主任者	3	3	4	4	4	特定化学物質及び四アル キル鉛等作業主任者	-	-	-	-	3	岐阜県肝炎医療コーディネーター	0	1	1	1	16	精度管理責任者	0	0	1	2	1	臨地実習指導者	0	1	1	2	2	品質管理検定	0	0	0	1	1	心電図検定 1 級	-	-	-	-	1	心電図検定 2 級	0	0	0	1	1	心電図検定 3 級	0	0	0	1	1	ゆうパックによる検体送 付するための研修会	-	-	-	-	7					
日本糖尿病療養指導士	1	1	1	1	1																																																																				
有機溶剤作業主任者	3	3	4	4	4																																																																				
特定化学物質及び四アル キル鉛等作業主任者	-	-	-	-	3																																																																				
岐阜県肝炎医療コーディネーター	0	1	1	1	16																																																																				
精度管理責任者	0	0	1	2	1																																																																				
臨地実習指導者	0	1	1	2	2																																																																				
品質管理検定	0	0	0	1	1																																																																				
心電図検定 1 級	-	-	-	-	1																																																																				
心電図検定 2 級	0	0	0	1	1																																																																				
心電図検定 3 級	0	0	0	1	1																																																																				
ゆうパックによる検体送 付するための研修会	-	-	-	-	7																																																																				
※令和6年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・超音波検査士（循環器） 1名 ・超音波検査士（体表臓器） 1名 ・乳房超音波技術試験 B判定 1名 ・緊急臨床検査士 3名 ・認定血液検査技師 1名 ・認定臨床微生物検査技師 1名 ・2級臨床検査士（微生物） 1名 ・2級臨床検査士（神経生理） 1名 ・感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT） 1名 ・タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣認定 2名 ・特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 3名 ・岐阜県肝炎医療コーディネーター 15名 ・心電図検定1級 1名 ・心電図検定2級 1名 ・心電図検定3級 1名 ・ゆうパックによる検体送付するための研修会 7名																																																																									
【病理部】 ・日本臨床衛生検査技師会																																																																									

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																											
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																										
		・日本臨床細胞学会 ・認定病理検査技師講習会 ・日本遺伝カウンセリング学会 ・日本人類遺伝学会 ・日本認定遺伝カウンセラー協会 ※主な資格取得者数（年度末） 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定病理検査技師</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr> <td>細胞検査士</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr> <td>2級臨床検査士（病理学）</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr> <td>検体採取等の講習会修了者</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr> <td>タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣認定</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>3</td></tr> <tr> <td>がんゲノム医療コーディネーター</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td></tr> </tbody> </table> ※令和6年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣認定 3名 ・がんゲノム医療コーディネーター 1名 【薬剤部】 ・日本医療薬学会年会 ・日病薬 日薬東海ブロック合同学術大会 ・全日本自治体病院学会 ・日本麻酔科学会 周術期管理チームセミナー ・岐阜県病院薬剤師会研修会 ・岐阜県病院協会医学会 ・東海薬剤師学術大会 ・日本小児臨床薬理学会 ・日本腎臓病薬物療法学会 ・日本緩和医療薬学会 ・日本腎臓学会 ・日本化学療法学会 ・日本臨床救急医学会 ・日本病院会病院中継職員教育研修	資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6	認定病理検査技師	3	6	6	7	7	細胞検査士	8	8	8	7	7	2級臨床検査士（病理学）	1	1	1	1	1	検体採取等の講習会修了者	6	6	6	8	8	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣認定	-	-	-	-	3	がんゲノム医療コーディネーター	-	-	-	-	1			
資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																										
認定病理検査技師	3	6	6	7	7																																										
細胞検査士	8	8	8	7	7																																										
2級臨床検査士（病理学）	1	1	1	1	1																																										
検体採取等の講習会修了者	6	6	6	8	8																																										
タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣認定	-	-	-	-	3																																										
がんゲノム医療コーディネーター	-	-	-	-	1																																										

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																																																	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																																																
		・感染制御専門薬剤師講習会 ・妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会 ・妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修会 ・日本栄養治療学会 ・日本医薬品情報学会 ・がん専門薬剤師集中教育講座 ・日本臨床腫瘍薬学会 ※主な資格取得者数（年度末）単位：人 <table><tr><th>資格名／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td>感染制御認定薬剤師</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>抗菌化学療法認定薬剤師</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>6</td></tr><tr><td>日病薬 病院薬学認定薬剤師</td><td>21</td><td>28</td><td>27</td><td>29</td><td>33</td></tr><tr><td>がん専門薬剤師</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>がん指導薬剤師</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>緩和薬物療法認定薬剤師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>日本糖尿病療養指導士</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>4</td><td>5</td></tr><tr><td>周術期管理チーム認定薬剤師</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>外来がん治療認定薬剤師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>腎臓病薬物療法認定薬剤師</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>腎臓病療養指導士</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>小児薬物療法認定薬剤師</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>救急認定薬剤師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>NST 専門療法士</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>心不全療養指導士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> ※令和6年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・抗菌化学療法認定薬剤師 2名 ・病院薬学認定薬剤師 4名 ・がん専門薬剤師 1名 ・日本糖尿病療養指導士 1名 【中央リハビリテーション部】	資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6	感染制御認定薬剤師	2	2	2	3	3	抗菌化学療法認定薬剤師	2	2	3	4	6	日病薬 病院薬学認定薬剤師	21	28	27	29	33	がん専門薬剤師	2	3	3	3	4	がん指導薬剤師	0	0	0	1	1	緩和薬物療法認定薬剤師	1	1	2	2	2	日本糖尿病療養指導士	5	5	5	4	5	周術期管理チーム認定薬剤師	2	2	2	3	3	外来がん治療認定薬剤師	1	1	2	1	1	腎臓病薬物療法認定薬剤師	0	0	1	1	1	腎臓病療養指導士	2	2	2	2	2	小児薬物療法認定薬剤師	2	2	2	2	2	救急認定薬剤師	1	1	1	2	2	NST 専門療法士	1	1	2	2	2	心不全療養指導士	1	1	1	1	1			
資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																
感染制御認定薬剤師	2	2	2	3	3																																																																																																
抗菌化学療法認定薬剤師	2	2	3	4	6																																																																																																
日病薬 病院薬学認定薬剤師	21	28	27	29	33																																																																																																
がん専門薬剤師	2	3	3	3	4																																																																																																
がん指導薬剤師	0	0	0	1	1																																																																																																
緩和薬物療法認定薬剤師	1	1	2	2	2																																																																																																
日本糖尿病療養指導士	5	5	5	4	5																																																																																																
周術期管理チーム認定薬剤師	2	2	2	3	3																																																																																																
外来がん治療認定薬剤師	1	1	2	1	1																																																																																																
腎臓病薬物療法認定薬剤師	0	0	1	1	1																																																																																																
腎臓病療養指導士	2	2	2	2	2																																																																																																
小児薬物療法認定薬剤師	2	2	2	2	2																																																																																																
救急認定薬剤師	1	1	1	2	2																																																																																																
NST 専門療法士	1	1	2	2	2																																																																																																
心不全療養指導士	1	1	1	1	1																																																																																																

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																			
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																		
		・日本ハンドセラピー学会 ・日本理学療法学会 ・日本集中治療医学会 ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会 ・日本心臓リハビリテーション学会 ※主な資格取得者数（年度末） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3 学会合同呼吸療法認定士</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>心臓リハビリテーション指導士</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>認定理学療法士</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>心不全療養指導士</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>LSVT®資格認定</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>公認心理士</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>認定ハンドセラピスト</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> ※令和 6 年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・ 3 学会合同呼吸療法認定士 2 名 ・ 認定理学療法士 1 名 ・ 心不全療養指導士 1 名 ・ 認定ハンドセラピスト 1 名 【栄養部】 ・全国自治体病院学会 ・岐阜県病院協会医学会 ・日本心臓リハビリ学会学術集会 ・日本臨床栄養代謝学会 ・日本病態栄養学会年次学術集会 ・がん専門管理栄養士セミナー ※主な資格取得者数（年度末） <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格名／年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6	3 学会合同呼吸療法認定士	25	29	33	33	35	心臓リハビリテーション指導士	3	6	7	6	7	認定理学療法士	4	8	8	7	7	心不全療養指導士	1	4	4	4	5	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	1	1	1	1	1	LSVT®資格認定	1	1	2	2	2	公認心理士	0	0	1	1	1	認定ハンドセラピスト	0	0	1	1	1	資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6									
資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																		
3 学会合同呼吸療法認定士	25	29	33	33	35																																																																		
心臓リハビリテーション指導士	3	6	7	6	7																																																																		
認定理学療法士	4	8	8	7	7																																																																		
心不全療養指導士	1	4	4	4	5																																																																		
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	1	1	1	1	1																																																																		
LSVT®資格認定	1	1	2	2	2																																																																		
公認心理士	0	0	1	1	1																																																																		
認定ハンドセラピスト	0	0	1	1	1																																																																		
資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																		

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																																																																
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案	意見																																																														
		<table><tr><td>NST 専門療法士</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>糖尿病療養指導士</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>病態栄養専門管理栄養士</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>5</td></tr><tr><td>がん病態栄養専門管理栄養士</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>心臓リハビリテーション指導士</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>アレルギー疾患療養指導士</td><td>0</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></table>	NST 専門療法士	3	4	5	5	5	糖尿病療養指導士	5	5	5	5	5	病態栄養専門管理栄養士	4	4	4	4	5	がん病態栄養専門管理栄養士	2	2	2	2	2	心臓リハビリテーション指導士	1	1	1	1	1	アレルギー疾患療養指導士	0	2	2	2	2																																	
NST 専門療法士	3	4	5	5	5																																																																		
糖尿病療養指導士	5	5	5	5	5																																																																		
病態栄養専門管理栄養士	4	4	4	4	5																																																																		
がん病態栄養専門管理栄養士	2	2	2	2	2																																																																		
心臓リハビリテーション指導士	1	1	1	1	1																																																																		
アレルギー疾患療養指導士	0	2	2	2	2																																																																		
		※令和6年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・病態栄養専門管理栄養士 1名																																																																					
		【臨床工学部】 ・日本臨床工学技士会 ・岐阜県臨床工学技士会 ・日本心血管インターベンション治療学会 ・日本不整脈心電学会 ・日本透析医学会 ・日本人工臓器学会教育セミナー																																																																					
		※主な資格取得者数（年度末） 単位：人 <table><tr><td>資格名／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>体外循環技術認定士</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>8</td></tr><tr><td>透析技術認定士</td><td>4</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>呼吸療法認定士</td><td>4</td><td>6</td><td>6</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>不整脈治療関連専門臨床工学技士</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>認定集中治療関連臨床工学技士</td><td>0</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>植込み型心臓デバイス認定士</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>心血管インターベンション技師</td><td>0</td><td>5</td><td>6</td><td>6</td><td>7</td></tr><tr><td>第一種ME 技術者</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>医療機器情報コミュニケーター（MDIC）</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></table>					資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6	体外循環技術認定士	5	5	5	5	8	透析技術認定士	4	4	5	5	5	呼吸療法認定士	4	6	6	5	5	不整脈治療関連専門臨床工学技士	0	1	1	1	1	認定集中治療関連臨床工学技士	0	2	3	3	4	植込み型心臓デバイス認定士	0	1	1	1	2	心血管インターベンション技師	0	5	6	6	7	第一種ME 技術者	0	1	1	1	1	医療機器情報コミュニケーター（MDIC）	1	2	2	2	2					
資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																		
体外循環技術認定士	5	5	5	5	8																																																																		
透析技術認定士	4	4	5	5	5																																																																		
呼吸療法認定士	4	6	6	5	5																																																																		
不整脈治療関連専門臨床工学技士	0	1	1	1	1																																																																		
認定集中治療関連臨床工学技士	0	2	3	3	4																																																																		
植込み型心臓デバイス認定士	0	1	1	1	2																																																																		
心血管インターベンション技師	0	5	6	6	7																																																																		
第一種ME 技術者	0	1	1	1	1																																																																		
医療機器情報コミュニケーター（MDIC）	1	2	2	2	2																																																																		

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																																						
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案	意見																																				
		<table><tr><td>認定ホスピタルエンジニア</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>ICLS 認定インストラクター</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>AHA-BLS プロバイダーコース</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>AHA-ACLS プロバイダーコース</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>心・血管カテーテル関連専門臨床工学技士</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>日本アフェレイシス学会認定技士</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td></tr></table>	認定ホスピタルエンジニア	1	1	1	1	1	ICLS 認定インストラクター	1	1	1	1	1	AHA-BLS プロバイダーコース	4	4	4	4	4	AHA-ACLS プロバイダーコース	4	4	4	4	4	心・血管カテーテル関連専門臨床工学技士	0	0	0	1	1	日本アフェレイシス学会認定技士	-	-	-	-	1							
認定ホスピタルエンジニア	1	1	1	1	1																																								
ICLS 認定インストラクター	1	1	1	1	1																																								
AHA-BLS プロバイダーコース	4	4	4	4	4																																								
AHA-ACLS プロバイダーコース	4	4	4	4	4																																								
心・血管カテーテル関連専門臨床工学技士	0	0	0	1	1																																								
日本アフェレイシス学会認定技士	-	-	-	-	1																																								
※令和6年度新規資格取得者（新規採用者も含む）																																													
・体外循環技術認定士 3人																																													
・認定集中治療関連臨床工学技士 1人																																													
・植込み型心臓デバイス認定士 1人																																													
・心血管インターベンション技師 1人																																													
・日本アフェレイシス学会認定技士 1人																																													
【事務局】																																													
・日本医療ソーシャルワーカー協会																																													
・岐阜県ソーシャルワーカー協会																																													
・日本社会福祉士会																																													
・岐阜県社会福祉士会																																													
・救急認定ソーシャルワーカー認定機構																																													
※主な資格取得者数（年度末）																																													
単位：人																																													
<table><tr><td>資格名／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>がん相談支援センター相談員基礎研修1・2</td><td>9</td><td>10</td><td>10</td><td>13</td><td>15</td></tr><tr><td>がん相談支援センター相談員基礎研修3</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>救急認定ソーシャルワーカー</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>肝炎医療コーディネーター</td><td>6</td><td>8</td><td>8</td><td>11</td><td>14</td></tr><tr><td>医療メディエーター</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td></tr></table>							資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6	がん相談支援センター相談員基礎研修1・2	9	10	10	13	15	がん相談支援センター相談員基礎研修3	5	5	6	6	6	救急認定ソーシャルワーカー	0	1	1	1	1	肝炎医療コーディネーター	6	8	8	11	14	医療メディエーター	2	2	2	4	6			
資格名／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																								
がん相談支援センター相談員基礎研修1・2	9	10	10	13	15																																								
がん相談支援センター相談員基礎研修3	5	5	6	6	6																																								
救急認定ソーシャルワーカー	0	1	1	1	1																																								
肝炎医療コーディネーター	6	8	8	11	14																																								
医療メディエーター	2	2	2	4	6																																								

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																															
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																														
		※令和6年度新規資格取得者（新規採用者も含む） ・肝炎医療コーディネーター 3名 ・医療メディエーター 2名 4 高度先端医療の推進 ・高度先端医療等新しい医療技術を実施するため、新たに下記の施設認定を取得した。 <施設認定名称> ・NIPT 連携施設（もりレディースクラブクリニック） ・経皮的心房中隔欠損閉鎖術実施施設認定 ・外科系学会社会保険委員会連合が指定した高難度手術（D、E 難度）や遺伝子検査を積極的に実施し、高度先端医療を推進した。 ○高度先端医療の実施状況 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D、E 難度手術実施数</td><td>4,850</td><td>5,263</td><td>5,149</td><td>5,437</td><td>5,558</td></tr> <tr> <td>遺伝子検査実施数</td><td>809</td><td>1,211</td><td>1,398</td><td>1,310</td><td>1,480</td></tr> </tbody> </table> ※遺伝子検査：D004-21、D006-2～20、D006-22～30 に該当する検査 5 専門性を発揮したチーム医療の推進 ・異なる職種のメディカルスタッフが連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮することにより、治療やケアに当たることができた。 <主な医療チーム> ICT、緩和ケアチーム、呼吸器ケアチーム、褥瘡ケアチーム、口腔ケアチーム、NST、摂食嚥下チーム、認知症ケアチーム、AST、早期離床リハビリテーションチーム、心不全チーム、排尿自立ケアチーム、術後疼痛管理チーム、腎不全チーム、身体拘束最小化チーム、AYA 世代サポートチーム ○各種チーム加算算定数 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	D、E 難度手術実施数	4,850	5,263	5,149	5,437	5,558	遺伝子検査実施数	809	1,211	1,398	1,310	1,480	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6									
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																														
D、E 難度手術実施数	4,850	5,263	5,149	5,437	5,558																														
遺伝子検査実施数	809	1,211	1,398	1,310	1,480																														
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																														

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																																																						
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案	意見																																																				
		<table><tr><td>緩和ケア診療加算</td><td>1, 221</td><td>1, 148</td><td>1, 406</td><td>1, 783</td><td>1, 410</td></tr><tr><td>呼吸ケアチーム加算</td><td>16</td><td>26</td><td>7</td><td>4</td><td>12</td></tr><tr><td>褥瘡ハイリスク患者ケア加算</td><td>2, 101</td><td>2, 545</td><td>2, 442</td><td>1, 738</td><td>1, 106</td></tr><tr><td>栄養サポートチーム加算</td><td>951</td><td>988</td><td>892</td><td>1, 086</td><td>1, 064</td></tr><tr><td>認知症ケア加算</td><td>1, 176</td><td>1, 331</td><td>1, 292</td><td>986</td><td>1, 351</td></tr><tr><td>早期離床リハビリテーション加算</td><td>999</td><td>1, 313</td><td>1, 347</td><td>1, 224</td><td>1, 442</td></tr><tr><td>排尿自立支援加算 (外来排尿自立指導料)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>22</td></tr><tr><td>術後疼痛管理チーム加算</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>395</td><td>1, 230</td></tr><tr><td>慢性腎臓病透析予防指導管理料</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>76</td></tr></table>	緩和ケア診療加算	1, 221	1, 148	1, 406	1, 783	1, 410	呼吸ケアチーム加算	16	26	7	4	12	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	2, 101	2, 545	2, 442	1, 738	1, 106	栄養サポートチーム加算	951	988	892	1, 086	1, 064	認知症ケア加算	1, 176	1, 331	1, 292	986	1, 351	早期離床リハビリテーション加算	999	1, 313	1, 347	1, 224	1, 442	排尿自立支援加算 (外来排尿自立指導料)	0	0	0	0	22	術後疼痛管理チーム加算	0	0	0	395	1, 230	慢性腎臓病透析予防指導管理料	0	0	0	0	76					
緩和ケア診療加算	1, 221	1, 148	1, 406	1, 783	1, 410																																																								
呼吸ケアチーム加算	16	26	7	4	12																																																								
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	2, 101	2, 545	2, 442	1, 738	1, 106																																																								
栄養サポートチーム加算	951	988	892	1, 086	1, 064																																																								
認知症ケア加算	1, 176	1, 331	1, 292	986	1, 351																																																								
早期離床リハビリテーション加算	999	1, 313	1, 347	1, 224	1, 442																																																								
排尿自立支援加算 (外来排尿自立指導料)	0	0	0	0	22																																																								
術後疼痛管理チーム加算	0	0	0	395	1, 230																																																								
慢性腎臓病透析予防指導管理料	0	0	0	0	76																																																								
		6 ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）等の活用 ・平成 29 年度及び平成 30 年度に整備した遠隔画像コンサルテーションシステムを積極的に活用し、準夜帯及び深夜帯の院内専門医不在時における画像コンサルテーションを、外部の放射線専門医に依頼することにより、安全かつ質の高い医療を提供した。令和6年度は3,346 件のCT・MRI 検査画像のコンサルテーション依頼を行った。 ○救急の外部コンサルテーション依頼数 単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>CT</td><td>3,091</td><td>3,271</td><td>3,321</td><td>3,203</td><td>3,178</td></tr><tr><td>MRI</td><td>412</td><td>372</td><td>390</td><td>315</td><td>268</td></tr></table> ・電子カルテシステム等の更新に合わせて導入した放射線画像 AI 診断システムについて、胸部 X 線画像において全診療科での活用を実施し、医師の負担軽減および質の高い医療の提供を実現した。 ・国が推進する医療 DX への対応については、電子処方箋の運用を令和6年7月より開始し、患者への質の高い医療の提供に取り組んだ。また、患者の利便					項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	CT	3,091	3,271	3,321	3,203	3,178	MRI	412	372	390	315	268																																					
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																								
CT	3,091	3,271	3,321	3,203	3,178																																																								
MRI	412	372	390	315	268																																																								

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																															
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																														
		性向上が期待できるマイナ保険証やマイナ診察券についても運用を開始し、利用促進に努めた。 7 入退院支援の充実 ・入院支援から退院支援への情報共有を図り、患者に継続した支援が実施できるように業務改善した。 ・退院支援における患者支援の方法も検討し、安心して退院できるよう業務改善した。予定入院する患者の入院当日の面談、入院支援室看護師からの事前の情報共有、病棟カンファレンスへの入院支援室・退院支援室・外来看護師の参加、さらに緊急入院となった患者への面談を確実に実施するようにした。 ・新生児特定集中治療室に入院した患者に対する入退院支援に関する評価である入退院支援加算3を算定する体制を継続した。昨年度に比べて算定数の向上が見られ、加算算定における取組みは定着していると考えられる。 ・入退院支援加算1については算定数は向上しつつあるが、さらなる向上を目指して2月からWGを立ち上げた。算定対象者の検討をし、病棟主体の体制を整え、算定数向上に向けて取り組んでいるところである。 ○入退院支援業務の実施状況 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院時支援介入数</td><td>879</td><td>2,706</td><td>3,472</td><td>3,601</td><td>4,025</td></tr> <tr> <td>入退院支援加算1 算定数</td><td>2,208</td><td>2,897</td><td>3,906</td><td>6,116</td><td>6,356</td></tr> <tr> <td>入院時支援加算 算定数</td><td>162</td><td>302</td><td>1,262</td><td>1,984</td><td>2,203</td></tr> <tr> <td>入退院支援加算3 算定数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>36</td><td>86</td></tr> </tbody> </table>	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	入院時支援介入数	879	2,706	3,472	3,601	4,025	入退院支援加算1 算定数	2,208	2,897	3,906	6,116	6,356	入院時支援加算 算定数	162	302	1,262	1,984	2,203	入退院支援加算3 算定数	—	—	—	36	86			
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																														
入院時支援介入数	879	2,706	3,472	3,601	4,025																														
入退院支援加算1 算定数	2,208	2,897	3,906	6,116	6,356																														
入院時支援加算 算定数	162	302	1,262	1,984	2,203																														
入退院支援加算3 算定数	—	—	—	36	86																														
02	1 待ち時間の改善等 当院における急性期治療から脱した患者に対する他の医療機関への逆紹介の推進や予約枠の均等配分等により、外来機能のスリム化及び平準化を図るとともに、ドクターズアシスタント（医師事務作業補助者）等スタッフの適正な配置並び	1 待ち時間の改善等 <外来部門> ・検査・診察・治療を患者に合わせたきめ細かい対応を行うことによって、院内滞在時間の縮減を図る取組みを継続した。	IV																																

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																			
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																		
	に2023年1月に新たに導入された患者向け通院支援アプリの活用により、診療及び検査等の業務の効率化と迅速化を図ることで診察待ち時間の短縮に努める。 また、業務の見直しや医療機器の更新等による検査（採血、心電図、超音波等）の効率的な実施やキャッシュレス決済等による支払手法の拡大等により、検査や会計待ち時間の改善を図る。 さらに、待ち時間の実態調査（患者満足度調査「年1回」及びシステムによる調査「年4回」）や系統的な確認を継続的に実施し、患者からの意見・要望に対して、各部署において改善計画を立案し、積極的に取り組むことで平均待ち時間の短縮を図る。 3 医療に関する相談体制の充実 外来初診受付付近に患者に分かりやすい相談窓口を設け、相談担当者が対応する。相談内容に応じて関係部署との連携を図り、診療内容、在宅支援、苦情、就労支援をはじめあらゆる相談に迅速に対応可能な体制を整える。 また、毎週カンファレンスを開催し、問題事項についてスタッフ間で協議、共有する。 4 外国人に配慮した受診支援 外国人の対応については、常勤の医療通訳の配置を継続するほか、院内の外国語表示の充実、タブレット端末や電話による医療通訳の活用、医療に関する各種書類等の外国語対応を行い、外国人患者が安心して受診できる体制を整備する。 5 患者中心の医療の提供及び患者満足度の向	・検査が必要な患者に対しては検査を先に実施 ・看護師による指導を必要とする患者に対しての指導・説明を待ち時間に実施 ・入院患者に対する説明の一元化 ・病診連携による紹介患者については、診察予約時間 30 分以内の診察を徹底 ・待ち時間の有効活用に向けた取組みを継続した。 ・患者向け通院支援アプリの活用により、診察待ち時間の負担を軽減 ・待ち時間に待合場所を離れる患者に対して、希望により携帯電話による呼び出しを実施 ・診療科に即したパンフレットや図書を配置 ・患者満足度調査にあわせて、待ち時間調査を実施するとともに、システムによる待ち時間の把握を年4回実施し、状況の把握に努めた。調査の結果、患者満足度調査での平均待ち時間、システムによる待ち時間ともに減る傾向となった。マイナ保険証の活用による保険確認の簡素化や通院支援アプリの有効活用等が待ち時間の減少に寄与したものと思われる。 ○患者満足度調査による平均待ち時間 単位：分 <table><tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>32</td><td>36</td><td>38</td><td>39</td><td>36</td></tr></table> ※予約時刻と実際の診療開始時刻までの時間 ○システムによる待ち時間別患者構成率 単位：％ <table><tr><td>年月／待ち時間</td><td>～30 分</td><td>30～2 時間</td><td>2 時間～</td></tr><tr><td>R3.1</td><td>51.4</td><td>43.5</td><td>5.2</td></tr><tr><td>R4.1</td><td>43.9</td><td>46.9</td><td>9.2</td></tr><tr><td>R5.1</td><td>46.6</td><td>46.2</td><td>7.2</td></tr><tr><td>R6.1</td><td>59.8</td><td>35.4</td><td>4.7</td></tr><tr><td>R7.1</td><td>63.4</td><td>33.9</td><td>2.7</td></tr></table>	R2	R3	R4	R5	R6	32	36	38	39	36	年月／待ち時間	～30 分	30～2 時間	2 時間～	R3.1	51.4	43.5	5.2	R4.1	43.9	46.9	9.2	R5.1	46.6	46.2	7.2	R6.1	59.8	35.4	4.7	R7.1	63.4	33.9	2.7			
R2	R3	R4	R5	R6																																			
32	36	38	39	36																																			
年月／待ち時間	～30 分	30～2 時間	2 時間～																																				
R3.1	51.4	43.5	5.2																																				
R4.1	43.9	46.9	9.2																																				
R5.1	46.6	46.2	7.2																																				
R6.1	59.8	35.4	4.7																																				
R7.1	63.4	33.9	2.7																																				

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																												
	上 当センターが掲げる『患者さんの権利と責務』（「平等に安全で良質な医療を受ける権利」、「十分な説明と助言のもとに患者自身の医療を決定する権利」、「セカンドオピニオンを受ける権利」、「個人のプライバシーが守られる権利」、「医療従事者と協力して医療に参加する責務」）及び『こども患者さんへの約束とお願い』を推進し、県民に信頼され、患者本位の安全で良質な全人的医療を提供する。また、これらを遵守することで、患者満足度の向上（外来：80%以上、入院：90%以上）を目指す。	<中央検査部門> ・待ち時間の短縮を図るため、採血開始時間を8時とする取組みを継続した。 また、中央採血室の拡張工事を実施し、中央採血室7ブース、第2採血室2ブースにて運用開始するとともに、第2採血室にて全体の2割の採血を実施した。中央採血室が1ブース増えたことで待ち時間は減少した。 <超音波検査部> ・外来の超音波検査件数は、前年度比10%の増加であった。心臓超音波が依然として多いが、独り立ちした職員が増えたこと、令和6年11月より1名増員したことで待ち時間は60分未満98.0%と解消された。 ○超音波検査待ち時間の推移（カッコ内の数字は技師数） <table><tr><th>年度／項目</th><th>総数</th><th>60分未満</th><th>～90分</th><th>90分超</th></tr><tr><td>R2（13）</td><td>25,430件</td><td>93.3%</td><td>5.7%</td><td>1.0%</td></tr><tr><td>R3（12）</td><td>24,906件</td><td>94.7%</td><td>4.6%</td><td>0.7%</td></tr><tr><td>R4（10）</td><td>24,428件</td><td>85.4%</td><td>12.0%</td><td>2.6%</td></tr><tr><td>R5（13）</td><td>23,704件</td><td>96.7%</td><td>3.0%</td><td>0.3%</td></tr><tr><td>R6（15）</td><td>24,836件</td><td>98.0%</td><td>1.9%</td><td>0.1%</td></tr></table> ○超音波検査件数（外来分） <table><tr><th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td>総数</td><td>18,860</td><td>19,828</td><td>18,250</td><td>18,227</td><td>20,043</td></tr><tr><td>うち心臓超音波</td><td>5,477</td><td>5,832</td><td>5,729</td><td>5,863</td><td>6,694</td></tr></table> 3 医療に関する相談体制の充実 ・毎週月曜日にカンファレンスを開催し、医療相談に係る問題事項についての協議を行った。患者等からの苦情については主治医や関係職種との情報共有を行い対応した。 ○カンファレンスで協議した事項及び件数 <table><tr><th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td>病院の環境</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>8</td></tr></table>	年度／項目	総数	60分未満	～90分	90分超	R2（13）	25,430件	93.3%	5.7%	1.0%	R3（12）	24,906件	94.7%	4.6%	0.7%	R4（10）	24,428件	85.4%	12.0%	2.6%	R5（13）	23,704件	96.7%	3.0%	0.3%	R6（15）	24,836件	98.0%	1.9%	0.1%	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	総数	18,860	19,828	18,250	18,227	20,043	うち心臓超音波	5,477	5,832	5,729	5,863	6,694	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	病院の環境	3	0	0	0	8			
年度／項目	総数	60分未満	～90分	90分超																																																													
R2（13）	25,430件	93.3%	5.7%	1.0%																																																													
R3（12）	24,906件	94.7%	4.6%	0.7%																																																													
R4（10）	24,428件	85.4%	12.0%	2.6%																																																													
R5（13）	23,704件	96.7%	3.0%	0.3%																																																													
R6（15）	24,836件	98.0%	1.9%	0.1%																																																													
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																												
総数	18,860	19,828	18,250	18,227	20,043																																																												
うち心臓超音波	5,477	5,832	5,729	5,863	6,694																																																												
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																												
病院の環境	3	0	0	0	8																																																												

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																																																																																						
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案	意見																																																																																				
		<table><tr><td>患者等からの相談</td><td>5</td><td>4</td><td>4</td><td>6</td><td>1</td></tr><tr><td>患者相談対応力向上のための事例検討</td><td>28</td><td>32</td><td>36</td><td>31</td><td>33</td></tr><tr><td>患者等からの苦情</td><td>44</td><td>37</td><td>44</td><td>83</td><td>26</td></tr><tr><td>その他</td><td>17</td><td>1</td><td>5</td><td>15</td><td>27</td></tr></table> ・全体の医療相談件数はやや減少しているが、外来及び入院後の相談があり、高齢化に伴い独居や生活保護等の福祉相談が増加した。また、入退院支援加算算定数増加の取組みにより入院後 7 日以内の相談件数が増加した。 ○医療相談件数単位：件 <table><tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>20, 368</td><td>21, 536</td><td>22, 036</td><td>21, 439</td><td>23, 870</td></tr></table> 4 外国人に配慮した受診支援 ・COVID-19の影響により派遣が中断されていた通訳ボランティアは令和 4 年 4 月から再開された。 ・外国人の受診を支援するため、ボランティア及び職員による対応を引き続き行った。ともに、対応件数は増加した。 ○医療通訳病院職員対応件数単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>中国語</td><td>294</td><td>259</td><td>167</td><td>176</td><td>120</td></tr><tr><td>英語</td><td>399</td><td>507</td><td>533</td><td>410</td><td>515</td></tr><tr><td>ポルトガル語</td><td>241</td><td>214</td><td>181</td><td>169</td><td>296</td></tr><tr><td>スペイン語</td><td>102</td><td>51</td><td>59</td><td>55</td><td>47</td></tr><tr><td>その他</td><td>62</td><td>53</td><td>44</td><td>52</td><td>61</td></tr><tr><td>合計</td><td>1, 098</td><td>1, 084</td><td>984</td><td>862</td><td>1, 039</td></tr></table> ○医療通訳ボランティア派遣依頼件数単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>ポルトガル語</td><td>2</td><td>0</td><td>36</td><td>57</td><td>77</td></tr></table>	患者等からの相談	5	4	4	6	1	患者相談対応力向上のための事例検討	28	32	36	31	33	患者等からの苦情	44	37	44	83	26	その他	17	1	5	15	27	R2	R3	R4	R5	R6	20, 368	21, 536	22, 036	21, 439	23, 870	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	中国語	294	259	167	176	120	英語	399	507	533	410	515	ポルトガル語	241	214	181	169	296	スペイン語	102	51	59	55	47	その他	62	53	44	52	61	合計	1, 098	1, 084	984	862	1, 039	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	ポルトガル語	2	0	36	57	77			
患者等からの相談	5	4	4	6	1																																																																																								
患者相談対応力向上のための事例検討	28	32	36	31	33																																																																																								
患者等からの苦情	44	37	44	83	26																																																																																								
その他	17	1	5	15	27																																																																																								
R2	R3	R4	R5	R6																																																																																									
20, 368	21, 536	22, 036	21, 439	23, 870																																																																																									
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																								
中国語	294	259	167	176	120																																																																																								
英語	399	507	533	410	515																																																																																								
ポルトガル語	241	214	181	169	296																																																																																								
スペイン語	102	51	59	55	47																																																																																								
その他	62	53	44	52	61																																																																																								
合計	1, 098	1, 084	984	862	1, 039																																																																																								
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																								
ポルトガル語	2	0	36	57	77																																																																																								

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																																																																																							
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案 意見																																																																																						
		<table><tr><td>中国語</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>タガログ語</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td><td>5</td><td>9</td></tr><tr><td>合計</td><td>2</td><td>0</td><td>47</td><td>62</td><td>86</td></tr></table> ・電話による通訳サービスを継続し、通訳担当職員不在時（夜間休日）等にも対応できるよう努めた。 ○電話通訳サービス利用件数 単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>ポルトガル語</td><td>9</td><td>11</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>中国語</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>タガログ語</td><td>1</td><td>5</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>ベトナム語</td><td>6</td><td>2</td><td>7</td><td>0</td><td>4</td></tr><tr><td>英語</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>スペイン語</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>タイ語</td><td>0</td><td>20</td><td>9</td><td>6</td><td>2</td></tr><tr><td>ミャンマー語</td><td>0</td><td>0</td><td>13</td><td>3</td><td>1</td></tr><tr><td>インドネシア語</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>合計</td><td>17</td><td>38</td><td>36</td><td>10</td><td>12</td></tr></table> ・医療に関する各種書類については、説明書等の文書や患者の診断書の翻訳版を提供することで、外国人患者が安心して受診できる体制の構築に努めた。今年度は、初診時に使用する問診票について英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、タガログ語に翻訳したものを作成した。 5 患者中心の医療の提供及び患者満足度の向上 ・患者の権利、こども患者の権利、個人情報保護に関する方針をロビーやホームページに継続して掲示している。 ・患者満足度調査の結果、5段階評価で「満足」と「やや満足」の割合は、外来は80.4%、入院は93.2%となり、ともに目標を達成できた。 ○患者満足度調査満足割合 単位：％ <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr></table>	中国語	0	0	0	0	0	タガログ語	0	0	11	5	9	合計	2	0	47	62	86	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	ポルトガル語	9	11	3	0	2	中国語	0	0	0	0	2	タガログ語	1	5	2	0	1	ベトナム語	6	2	7	0	4	英語	1	0	0	1	0	スペイン語	0	0	0	0	0	タイ語	0	20	9	6	2	ミャンマー語	0	0	13	3	1	インドネシア語	0	0	2	0	0	合計	17	38	36	10	12	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6		
中国語	0	0	0	0	0																																																																																									
タガログ語	0	0	11	5	9																																																																																									
合計	2	0	47	62	86																																																																																									
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																									
ポルトガル語	9	11	3	0	2																																																																																									
中国語	0	0	0	0	2																																																																																									
タガログ語	1	5	2	0	1																																																																																									
ベトナム語	6	2	7	0	4																																																																																									
英語	1	0	0	1	0																																																																																									
スペイン語	0	0	0	0	0																																																																																									
タイ語	0	20	9	6	2																																																																																									
ミャンマー語	0	0	13	3	1																																																																																									
インドネシア語	0	0	2	0	0																																																																																									
合計	17	38	36	10	12																																																																																									
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																									

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価						評価委員会の検証																																					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）						自己 評価	評価 提案	意見																																			
		外来	85.8	81.9	83.2	79.5	80.4																																						
		入院	91.5	93.9	91.2	94.9	93.2																																						
03	1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実 患者動向、医療需要の変化及び医療の進歩に対応するため、診療科や専門外来の新設等、患者ニーズに対応したきめ細やかな診療体制の充実を図る。	1 患者動向や医療需要の変化に即した診療体制の整備・充実 ・患者動向や医療需要の変化に対応した組織改編等に積極的に取り組んだことにより、患者に対してよりきめ細やかなサービスを提供することができた。新たな診療部門の設置や需要に対応するため医療支援部門の新設・再編等、将来を見据えた診療体制の充実を図った。 ○組織・診療科等の新設等 【診療部門】 ・「術後疼痛管理部」の新設 【医療支援部門】 ・「放射線治療品質管理担当」の新設 ・「NP（ナース・プラクティショナー）部」の新設						IV																																					
04	1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上 当センターと地域医療機関がそれぞれの特性を生かしながら機能分担し、患者が病状に即した医療を受診できるよう地域全体で協力し、ケアしていくため、「地域医療支援病院」として、紹介率の維持・向上（75%以上）及び逆紹介率の維持・向上（100%以上）を目指すことで、地域の医療機関との連携及び協力体制の更なる充実を図る。 また、地域の各医療機関への積極的な訪問や予約システムの活用、メール等を利用した各種情報提供等により、開放型病床登録医療機関及び登録医師数の拡大や紹介患者数の増加を目指し、「病病連携」や「病診連携」を推進する。 さらに、医療機関検索システムを導入し、登録医をはじめとした地域医療機関への逆紹介を推	1 近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化による紹介率・逆紹介率の維持・向上 ・紹介率・逆紹介率について、年度計画（紹介率75%以上、逆紹介率95%以上）の目標に対して紹介率・逆紹介率ともに達成できた。「かかりつけ医紹介窓口」を一部の外来から開始し、外来患者の逆紹介につなげた。 ○紹介率・逆紹介率 単位：％ <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>70.0</td><td>71.9</td><td>67.2</td><td>74.3</td><td>78.3</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>97.6</td><td>110.5</td><td>107.9</td><td>111.2</td><td>114.2</td></tr></table> ・転院先となる医療機関等への訪問件数は、地域医療連携部の協力のもと増加した。 ○医療機関への訪問件数 単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>転院先</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>22</td><td>19</td></tr><tr><td>開業医</td><td>16</td><td>41</td><td>45</td><td>149</td><td>250</td></tr></table>						項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	紹介率	70.0	71.9	67.2	74.3	78.3	逆紹介率	97.6	110.5	107.9	111.2	114.2	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	転院先	4	1	0	22	19	開業医	16	41	45	149	250	IV	二次医療圏内でより緊密な連携が期待されます。 近隣（県総合医療センターの守備範囲は岐阜医療圏と明記してあります）の医療機関との役割分担を明確にするとあるが、役割分担とは自院が何を担当し、自院が担当しないことは他院に依頼することを意味します。それは疾患別、重症度別でそれぞれ相手方と相談して行うべきものです。そのテーブルが、地域医療構想調整会議です。岐阜圏域のその会議で、県総合医療センターの役割分担に関して論議されたことはないと思います。したがって、十分に役割分担・連携がなされているとは言えないと思
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																								
紹介率	70.0	71.9	67.2	74.3	78.3																																								
逆紹介率	97.6	110.5	107.9	111.2	114.2																																								
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																								
転院先	4	1	0	22	19																																								
開業医	16	41	45	149	250																																								

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																
	進ずる。	○連携関連件数単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>紹介患者数</td><td>13,139</td><td>13,837</td><td>14,120</td><td>14,535</td><td>14,695</td></tr><tr><td>逆紹介患者数</td><td>18,330</td><td>21,249</td><td>22,670</td><td>21,754</td><td>21,432</td></tr><tr><td>転院患者数</td><td>1,177</td><td>1,140</td><td>1,016</td><td>1,043</td><td>1,176</td></tr></table> ○退院調整件数単位：件 <table><tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>1,802</td><td>1,839</td><td>1,835</td><td>1,845</td><td>1,927</td></tr></table> ・開放型病床登録医療機関及び登録医師数の拡大を目指し、新規に開設した医療機関に対する働きかけを行った。結果、医療機関数、医師の登録数ともに増加した。 ○開放型病床登録数 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>医療機関数</td><td>416</td><td>433</td><td>406</td><td>435</td><td>444</td></tr><tr><td>医師数</td><td>531</td><td>550</td><td>570</td><td>580</td><td>617</td></tr></table> ・医療機関からの外来予約について、WEB を活用した受付を全診療科で実施した（令和4年12月までは小児科のみ）。 ・WEB 予約システムに関する広報活動とともに、地域医療機関への WEB 予約システム訪問設定及び利用開始後のサポートを継続実施することで、利用施設数並びに利用件数が大きく増加した。 ○WEB 予約受付件数 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>受付数</td><td>68</td><td>55</td><td>44</td><td>638</td><td>1,648</td></tr></table> ※令和4年12月までは小児科のみ	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	紹介患者数	13,139	13,837	14,120	14,535	14,695	逆紹介患者数	18,330	21,249	22,670	21,754	21,432	転院患者数	1,177	1,140	1,016	1,043	1,176	R2	R3	R4	R5	R6	1,802	1,839	1,835	1,845	1,927	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	医療機関数	416	433	406	435	444	医師数	531	550	570	580	617	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	受付数	68	55	44	638	1,648			います。 地域連携パスの利用は、好ましいことですが、その利用が役割分担ではないと思います。 この問題に関して、私は再三質問し、考慮していただくことをお願いしていますが、ここ数年来、変更はありません。
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																
紹介患者数	13,139	13,837	14,120	14,535	14,695																																																																
逆紹介患者数	18,330	21,249	22,670	21,754	21,432																																																																
転院患者数	1,177	1,140	1,016	1,043	1,176																																																																
R2	R3	R4	R5	R6																																																																	
1,802	1,839	1,835	1,845	1,927																																																																	
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																
医療機関数	416	433	406	435	444																																																																
医師数	531	550	570	580	617																																																																
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																
受付数	68	55	44	638	1,648																																																																
05	1 救急医療 岐阜圏域の救命救急センターとして、救命救急	1 救急医療 ・岐阜圏域の救命救急センターとして、救急疾患に対し全診療科が対応、当セ	IV		救急医療、心血管医療、周産期医療、こども医療はまさしく政策医療であ																																																																

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																																																	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																																																
	センター運営マニュアルに基づき、循環器系疾患、外傷をはじめ、指肢切断、急性薬物中毒などの特殊な症例を含め全ての救急疾患（精神科疾患を除く）に対し全診療科が対応し、二次・三次救急患者を24時間体制で受け入れ、安心して受診できる体制を確保し、更なる救命救急センター機能の強化と充実を図り、「断らない医療」を目指す。 3 周産期医療 総合周産期部（産科・胎児診療科）と新生児医療部（新生児内科）を基幹として、出生前診断・胎児治療を含め各科の枠を超えた母とこどもの総合的な高度医療を提供する。 各部門では、重症妊産婦や超早産児をはじめとして他施設では対応困難な症例に対して、専用のドクターカー（すこやか号）やドクターヘリ等による母体搬送や新生児搬送を24時間体制で受け入れ、後遺症なき発育を目指す。 県下全域に影響が危惧される事案が発生した場合には、県及び岐阜県周産期医療協議会等へ報告するとともに連携し協力体制を整える。 また、各自治体に新規に整備されるこども家庭センターと母子手帳交付時や出産前から産後まで密に連携を図り、ハイリスク症例のメンタルサポート、特定妊婦や社会的リスクを伴う家庭の支援を丁寧に行う。主に、医師、看護師、助産師、心理士、MSW等の多職種からなる連携チームを構成し、母とこども医療センター運営委員会、児童虐待防止委員会を通じて切れ目のない支援を目指す。 4 がん医療 地域がん診療連携拠点病院として各部署の機能を一層充実させ、院内がん登録数、がん相談件数等を増加させる。地域の患者と医療機関からの	ンターでの救急医療の完結を目指し、二次・三次救急患者を24時間体制で受け入れた。 ・受入体制について、外来については、内科系、外科系、小児科系の医師による24時間体制としたほか、入院については、主治医制で対応した。一方、臨床検査や放射線検査については、常時、検査可能とし、救急関係診療科の24時間呼び出しにより、緊急手術に常時対応できる体制を確保した。また、麻酔科医、産婦人科医等専門診療科医については、オンコール体制での対応を行った。 ○病床利用状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ入院患者数 (単位：人)</td><td>6,360</td><td>7,708</td><td>8,304</td><td>7,795</td><td>7,915</td></tr> <tr> <td>病床利用率 (単位：%)</td><td>58.1</td><td>70.4</td><td>75.8</td><td>71.0</td><td>72.3</td></tr> </tbody> </table> ○救急車受入状況 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急車受入件数</td><td>4,705</td><td>5,327</td><td>6,014</td><td>6,285</td><td>6,082</td></tr> <tr> <td>一日平均件数</td><td>12.9</td><td>14.6</td><td>16.5</td><td>17.2</td><td>16.7</td></tr> </tbody> </table> ○救急外来患者（診療科別：上位のみ） 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児科</td><td>2,831</td><td>3,945</td><td>4,672</td><td>5,483</td><td>4,441</td></tr> <tr> <td>消化器内科</td><td>2,237</td><td>2,449</td><td>2,593</td><td>2,659</td><td>2,611</td></tr> <tr> <td>整形外科</td><td>2,096</td><td>2,051</td><td>2,072</td><td>2,414</td><td>2,280</td></tr> <tr> <td>総合診療科</td><td>2,827</td><td>2,975</td><td>3,121</td><td>3,290</td><td>3,098</td></tr> <tr> <td>外科</td><td>1,236</td><td>1,215</td><td>1,160</td><td>863</td><td>812</td></tr> <tr> <td>循環器内科</td><td>1,482</td><td>1,764</td><td>1,765</td><td>1,668</td><td>1,835</td></tr> <tr> <td>脳神経内科</td><td>1,107</td><td>1,185</td><td>1,436</td><td>1,295</td><td>1,199</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>5,583</td><td>5,758</td><td>6,236</td><td>6,397</td><td>6,256</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>19,399</td><td>21,342</td><td>23,055</td><td>24,069</td><td>22,532</td></tr> </tbody> </table>	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	延べ入院患者数 (単位：人)	6,360	7,708	8,304	7,795	7,915	病床利用率 (単位：%)	58.1	70.4	75.8	71.0	72.3	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	救急車受入件数	4,705	5,327	6,014	6,285	6,082	一日平均件数	12.9	14.6	16.5	17.2	16.7	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	小児科	2,831	3,945	4,672	5,483	4,441	消化器内科	2,237	2,449	2,593	2,659	2,611	整形外科	2,096	2,051	2,072	2,414	2,280	総合診療科	2,827	2,975	3,121	3,290	3,098	外科	1,236	1,215	1,160	863	812	循環器内科	1,482	1,764	1,765	1,668	1,835	脳神経内科	1,107	1,185	1,436	1,295	1,199	その他	5,583	5,758	6,236	6,397	6,256	合計	19,399	21,342	23,055	24,069	22,532			る。一方、県総合医療センターが重点的に取り組んでいるがん医療の一部は岐阜医療圏内の中小病院でも対応可能な疾患・重症度は多々あると思います。前述の役割分担の立場から、すべてのがん患者を自院に取りこむべきではないと思います。また、がん患者の外来数の増加は、放射線治療は無理ですが、副作用の重くない比較的に投与でき観察が容易な化学療法を投与している患者は、一般開業医でもフォロー可能だと思います。そのような症例も取り込んでいるが故の増加と推測されるので、やはり、開業医との役割分担も進めていただきたいと思います。がん拠点病院であり、政策医療を実施する病院であるがゆえに、がんで亡くなられた方の剖検は非常に大切な使命です。剖検数が示されていませんが、多くないと推測されます。是非、本来果たすべき使命を果たしてください。
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																
延べ入院患者数 (単位：人)	6,360	7,708	8,304	7,795	7,915																																																																																																
病床利用率 (単位：%)	58.1	70.4	75.8	71.0	72.3																																																																																																
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																
救急車受入件数	4,705	5,327	6,014	6,285	6,082																																																																																																
一日平均件数	12.9	14.6	16.5	17.2	16.7																																																																																																
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																
小児科	2,831	3,945	4,672	5,483	4,441																																																																																																
消化器内科	2,237	2,449	2,593	2,659	2,611																																																																																																
整形外科	2,096	2,051	2,072	2,414	2,280																																																																																																
総合診療科	2,827	2,975	3,121	3,290	3,098																																																																																																
外科	1,236	1,215	1,160	863	812																																																																																																
循環器内科	1,482	1,764	1,765	1,668	1,835																																																																																																
脳神経内科	1,107	1,185	1,436	1,295	1,199																																																																																																
その他	5,583	5,758	6,236	6,397	6,256																																																																																																
合計	19,399	21,342	23,055	24,069	22,532																																																																																																

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																																																													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																																																												
	信頼を得るべく、あらゆる病期のがん患者に対して、診療ガイドラインに基づいた良質な医療を提供する。新たに高精度放射線治療装置を設置し、様々な部位のがんの根治を目指した放射線治療を行う。 最新技術を用いて、がんの早期診断、早期治療に努めるとともに、進行がん患者に対しては、集学的治療により、さらなる治療成績の向上を図る。ロボット手術の保険収載術式の拡大に伴い、各診療科においても、先進的低侵襲治療を積極的に展開させる。 ゲノム医療については、がんゲノム医療中核拠点病院である名古屋大学医学部附属病院と連携し、遺伝子変異に基づいた個別化治療につなげるためのがん遺伝子パネル検査を推進する。 若年世代のがん患者が増加していることから、就学や就労、生殖機能の温存等のニーズに対応できるように近隣の病院や専門施設との連携を強化する。 化学療法部門では、快適な環境下で多職種スタッフが関わり、安全で質の高い化学療法ができるように運営する。 緩和ケア部門では、がん患者の外来・入院時のスクリーニングを推進し、緩和ケアチームが積極的に関われる体制を強化する。また、緩和ケア外来、がん看護外来及び緩和ケア病床の充実を図るとともに、緩和ケアの患者がいつでも緊急入院できる体制を整える。 地域連携カンファレンスや診療所訪問などを通じて、顔の見える病診連携を進め、在宅緩和ケアなど患者の希望に沿った切れ目のない緩和ケアを展開する。 がん相談支援部門では、患者のニーズを踏まえたがん患者及びその家族の在宅医療支援や就労支援に力を入れ、利用者数の増加を図っていく。	3 周産期医療 <総合周産期センターの運営> ・新生児センター機能とハイリスクの妊産婦等の医療機能等の統合を継続し、産婦人科と小児科の枠を超えた高度医療を提供した。特に、合併症妊娠や異常妊娠、多胎妊娠、産褥異常、胎児異常等の患者の診療を行った。 ・当センターを受診されている妊婦だけではなく、緊急母体搬送で送られてくるハイリスク妊婦を24時間体制で受け入れた。 ○母体搬送の受入件数 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母体搬送</td><td>75 (2)</td><td>143 (1)</td><td>147 (0)</td><td>143 (3)</td><td>153 (2)</td></tr> <tr> <td>救急搬送</td><td>6</td><td>10</td><td>3</td><td>7</td><td>15</td></tr> </tbody> </table> ※（ ）はヘリコプター搬送《内数》 ○産科合併症 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>早産</td><td>117</td><td>106</td><td>95</td><td>140</td><td>111</td></tr> <tr> <td>HDP（妊娠高血圧症候群）</td><td>36</td><td>34</td><td>31</td><td>18</td><td>20</td></tr> <tr> <td>常位胎盤・早期剥離</td><td>5</td><td>12</td><td>6</td><td>5</td><td>13</td></tr> <tr> <td>胎盤位置異常</td><td>53</td><td>50</td><td>28</td><td>29</td><td>38</td></tr> <tr> <td>羊水の異常</td><td>80</td><td>84</td><td>52</td><td>34</td><td>87</td></tr> <tr> <td>胎児異常</td><td>77</td><td>115</td><td>101</td><td>92</td><td>120</td></tr> <tr> <td>FGR（胎児発育不全）</td><td>43</td><td>53</td><td>51</td><td>33</td><td>62</td></tr> </tbody> </table> ○合併症妊娠 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>婦人科系疾患</td><td>117</td><td>132</td><td>157</td><td>153</td><td>178</td></tr> <tr> <td>心・血管疾患</td><td>9</td><td>8</td><td>10</td><td>22</td><td>12</td></tr> <tr> <td>血液疾患</td><td>1</td><td>8</td><td>9</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr> <td>腎疾患</td><td>9</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>17</td></tr> <tr> <td>糖尿病・妊娠性糖尿病</td><td>39</td><td>43</td><td>36</td><td>49</td><td>23</td></tr> <tr> <td>甲状腺疾患</td><td>35</td><td>38</td><td>59</td><td>37</td><td>31</td></tr> </tbody> </table>	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	母体搬送	75 (2)	143 (1)	147 (0)	143 (3)	153 (2)	救急搬送	6	10	3	7	15	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	早産	117	106	95	140	111	HDP（妊娠高血圧症候群）	36	34	31	18	20	常位胎盤・早期剥離	5	12	6	5	13	胎盤位置異常	53	50	28	29	38	羊水の異常	80	84	52	34	87	胎児異常	77	115	101	92	120	FGR（胎児発育不全）	43	53	51	33	62	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	婦人科系疾患	117	132	157	153	178	心・血管疾患	9	8	10	22	12	血液疾患	1	8	9	4	5	腎疾患	9	14	13	13	17	糖尿病・妊娠性糖尿病	39	43	36	49	23	甲状腺疾患	35	38	59	37	31			
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																												
母体搬送	75 (2)	143 (1)	147 (0)	143 (3)	153 (2)																																																																																																												
救急搬送	6	10	3	7	15																																																																																																												
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																												
早産	117	106	95	140	111																																																																																																												
HDP（妊娠高血圧症候群）	36	34	31	18	20																																																																																																												
常位胎盤・早期剥離	5	12	6	5	13																																																																																																												
胎盤位置異常	53	50	28	29	38																																																																																																												
羊水の異常	80	84	52	34	87																																																																																																												
胎児異常	77	115	101	92	120																																																																																																												
FGR（胎児発育不全）	43	53	51	33	62																																																																																																												
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																												
婦人科系疾患	117	132	157	153	178																																																																																																												
心・血管疾患	9	8	10	22	12																																																																																																												
血液疾患	1	8	9	4	5																																																																																																												
腎疾患	9	14	13	13	17																																																																																																												
糖尿病・妊娠性糖尿病	39	43	36	49	23																																																																																																												
甲状腺疾患	35	38	59	37	31																																																																																																												

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証			
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案	意見	
		自己免疫・膠原病	9	5	3	6	7			
		呼吸器疾患	8	13	19	26	23			
		消化器疾患	3	22	9	13	7			
		精神・神経系	11	14	6	27	14			
		運動機能系	0	0	0	0	0			
		○ハイリスク妊婦・分娩等（対象者） 単位：件								
		項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6			
		総合周産期加算	307	335	291	310	264			
		ハイリスク妊娠	209	254	264	287	217			
		ハイリスク分娩	91	128	109	132	116			
		救急加算	156	149	148	148	171			
		○保健指導実績 単位：件								
		項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6			
		保健指導	1, 224	1, 177	1, 131	1, 167	1114			
		母乳相談	114	113	96	92	77			
		<新生児医療センターの運営>								
		・極低出生体重児は62名と前年度よりも増加した。								
		・院外出生児に関しては、当院でしか管理できない中等症・重症例を受け入れた結果、50名と前年度よりも増加した。								
		・当院では緊急対応必要な中等症・重症例を中心に新生児手術を行った結果、全ての科において手術件数が増加し54件となった。								
		○出生、母体搬送件数 単位：件								
		項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6			
		院内出生	207	229	198	225	208			
		院外出生	84	63	39	38	50			
		母体搬送経由	36	30	31	44	43			
		超低出生体重児	31	22	24	31	23			
		極低出生体重児	57	48	41	50	62			

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																																											
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																																																										
		○新生児手術状況 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児心臓外科</td><td>15</td><td>9</td><td>8</td><td>8</td><td>13</td></tr> <tr> <td>小児脳神経外科</td><td>5</td><td>6</td><td>3</td><td>1</td><td>7</td></tr> <tr> <td>小児外科</td><td>25</td><td>47</td><td>23</td><td>26</td><td>31</td></tr> <tr> <td>耳鼻科（気管切開）</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>2</td><td>3</td></tr> </tbody> </table> 4 がん医療 ・がん診療連携拠点病院として地域の医療機関と連携、あらゆる病期のがん患者に対して、良質な医療を提供した結果、COVID-19 の影響が残る中であっても外来患者は増加した。 ○がん患者数 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td><td>2,926</td><td>3,069</td><td>3,342</td><td>3,465</td><td>3,395</td></tr> <tr> <td>外来</td><td>70,467</td><td>73,399</td><td>74,646</td><td>75,528</td><td>79,829</td></tr> <tr> <td>がん患者死亡数</td><td>67</td><td>62</td><td>73</td><td>79</td><td>89</td></tr> </tbody> </table> ・医療従事者や一般市民を対象とした研修会やがん事例の検討を行う「がんカンファレンス」、末期がん患者の症例や課題を検討する「病診連携緩和ケアカンファレンス」を感染防止に配慮するためハイブリッド形式で開催し、がん医療に係る啓発を行った。 ・がん専門認定看護師及びがん関連分野認定看護師が、がん治療及び療養に携わった。 ○がん治療及び療養に携わがん認定看護師等 単位：人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目／年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん看護専門看護師</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr> <td>がん性疼痛看護師認定看護師</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr> <td>がん化学療法認定看護師</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr> <td>がん放射線療法認定看護師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr> <td>乳がん看護認定看護師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	小児心臓外科	15	9	8	8	13	小児脳神経外科	5	6	3	1	7	小児外科	25	47	23	26	31	耳鼻科（気管切開）	3	4	4	2	3	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	入院	2,926	3,069	3,342	3,465	3,395	外来	70,467	73,399	74,646	75,528	79,829	がん患者死亡数	67	62	73	79	89	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	がん看護専門看護師	1	0	0	1	1	がん性疼痛看護師認定看護師	2	1	1	1	1	がん化学療法認定看護師	3	3	3	3	3	がん放射線療法認定看護師	1	1	1	1	1	乳がん看護認定看護師	1	1	1	1	1			
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																										
小児心臓外科	15	9	8	8	13																																																																																										
小児脳神経外科	5	6	3	1	7																																																																																										
小児外科	25	47	23	26	31																																																																																										
耳鼻科（気管切開）	3	4	4	2	3																																																																																										
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																										
入院	2,926	3,069	3,342	3,465	3,395																																																																																										
外来	70,467	73,399	74,646	75,528	79,829																																																																																										
がん患者死亡数	67	62	73	79	89																																																																																										
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																										
がん看護専門看護師	1	0	0	1	1																																																																																										
がん性疼痛看護師認定看護師	2	1	1	1	1																																																																																										
がん化学療法認定看護師	3	3	3	3	3																																																																																										
がん放射線療法認定看護師	1	1	1	1	1																																																																																										
乳がん看護認定看護師	1	1	1	1	1																																																																																										

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																																																										
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案	意見																																																								
		<table><tr><td>緩和ケア認定看護師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>皮膚・排泄ケア認定看護師</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>摂食嚥下障害認定看護師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></table> ・身体的・精神的な苦痛を和らげる緩和ケアについて、チームとして取り組んだ。 ○緩和ケアチームの人員体制等 <table><tr><td>・医師 7 人、看護師 4 人、薬剤師 2 人、臨床心理士 2 人、管理栄養士 2 人、 リハビリ 4 人</td></tr><tr><td>・依頼者数 R2：209 人→R3：220 人→R4：252 人→R5：281 人→R6：245 人</td></tr></table> ○治療の実績 単位：人 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>外科的治療</td><td>1, 299 (150)</td><td>1, 200 (120)</td><td>1, 319 (149)</td><td>1, 448 (188)</td><td>1, 501 (253)</td></tr><tr><td>外来がん化学療法</td><td>6, 469</td><td>6, 549</td><td>6, 599</td><td>6, 525</td><td>7, 131</td></tr><tr><td>入院がん化学療法</td><td>2, 601</td><td>2, 634</td><td>2, 925</td><td>3, 115</td><td>2, 682</td></tr><tr><td>放射線治療</td><td>471</td><td>445</td><td>427</td><td>510</td><td>661</td></tr></table> ※（ ）はダ・ヴィンチによる手術《内数》 ・ゲノム医療に関しては、がんゲノム連携病院として、41 件のがん遺伝子パネル検査を実施した。 ・がん相談支援センターとして、「相談室」、「退院サポート部」及び「セカンドオピニオン」のがん相談をとりまとめている。 ・がん患者の就労支援として、社会保険労務士及び両立支援促進員による相談をそれぞれ月 1 回、ハローワーク就労支援員による相談を月 1 回～2 回実施した。 ○がん相談支援センターの活動実績 単位：件 <table><tr><td>項目／年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr></table>					緩和ケア認定看護師	1	1	1	1	1	皮膚・排泄ケア認定看護師	3	3	2	1	1	摂食嚥下障害認定看護師	1	1	2	2	2	・医師 7 人、看護師 4 人、薬剤師 2 人、臨床心理士 2 人、管理栄養士 2 人、 リハビリ 4 人	・依頼者数 R2：209 人→R3：220 人→R4：252 人→R5：281 人→R6：245 人	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6	外科的治療	1, 299 (150)	1, 200 (120)	1, 319 (149)	1, 448 (188)	1, 501 (253)	外来がん化学療法	6, 469	6, 549	6, 599	6, 525	7, 131	入院がん化学療法	2, 601	2, 634	2, 925	3, 115	2, 682	放射線治療	471	445	427	510	661	項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6			
緩和ケア認定看護師	1	1	1	1	1																																																												
皮膚・排泄ケア認定看護師	3	3	2	1	1																																																												
摂食嚥下障害認定看護師	1	1	2	2	2																																																												
・医師 7 人、看護師 4 人、薬剤師 2 人、臨床心理士 2 人、管理栄養士 2 人、 リハビリ 4 人																																																																	
・依頼者数 R2：209 人→R3：220 人→R4：252 人→R5：281 人→R6：245 人																																																																	
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																												
外科的治療	1, 299 (150)	1, 200 (120)	1, 319 (149)	1, 448 (188)	1, 501 (253)																																																												
外来がん化学療法	6, 469	6, 549	6, 599	6, 525	7, 131																																																												
入院がん化学療法	2, 601	2, 634	2, 925	3, 115	2, 682																																																												
放射線治療	471	445	427	510	661																																																												
項目／年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																												

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価					評価委員会の検証																				
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）					自己 評価	評価 提案 意見																			
		<table><tr><td>がん相談</td><td>917</td><td>1, 127</td><td>1, 018</td><td>1, 262</td><td>1, 140</td></tr><tr><td>就労支援（がん）</td><td>54</td><td>89</td><td>35</td><td>18</td><td>21</td></tr></table> ・平成 24 年度から、がん患者や家族のための「ほっとサロン」を毎日開催し、ピアサポーターによる支援を実施した。 ○ほっとサロン利用人数 単位：人 <table><tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>250</td><td>719</td><td>750</td><td>718</td><td>923</td></tr></table> ・AYA 世代サポートチームの活動を令和 4 年 11 月から開始した。毎月最終月曜日にチーム会議を開催した他、AYA 世代（15～39 歳）のがん患者への様々な支援を充実する活動（イベント参加や広報等）を行った。	がん相談	917	1, 127	1, 018	1, 262	1, 140	就労支援（がん）	54	89	35	18	21	R2	R3	R4	R5	R6	250	719	750	718	923			
がん相談	917	1, 127	1, 018	1, 262	1, 140																						
就労支援（がん）	54	89	35	18	21																						
R2	R3	R4	R5	R6																							
250	719	750	718	923																							
06	1 臨床研究及び治験の推進 治験や臨床研究事業に積極的に取り組むため、治験管理部を充実させ、岐阜医療圏地域コンソーシアムを活用することで、受託件数の増加促進を図る。 2 大学等の研究機関や企業との共同研究の推進 臨床研究部や高度先端医療部において、治験、EBM、臨床研究、先端・先進・高度医療等の新しい医療について研究研修を推進する。		III		臨床研究で最も大切なことは、結果を学会で発表し、査読のある論文として世に出すことです。そういった実績が提示されていません。																						
07	2 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データの有効活用 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データを分析し、医療情報として院内に提供することで、医療の質向上を図るとともに、効果的・効率的な治療の実施を支援する。 また、診療録記載内容の監査、病理検査結果の患者への説明状況や画像診断結果の確認状況等を点検することにより、院内の医療従事者の総合的	2 電子カルテシステム等に蓄積された各種医療データの有効活用 ・医師が記載した電子カルテの診療記録について、記述内容等を診療情報管理委員会で監査し、そのレベル向上を図るとともに、病理検査結果、内視鏡検査結果の患者への説明状況や画像診断結果の確認状況等を点検することにより、医療の安全と質の向上に努めた。また、医療画像の提供（8,056 件）やぎふ清流ネットの活用により、病診連携の実現に努めた。 ・診療情報として蓄積された DPC データについては、多職種で構成する分析チームにより、分析ソフトによる解析とコンサルタントを活用した 10 診療科の分析を実施した。また、分析により指摘した事項について、半年後の定量的	IV																								

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																									
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																								
	なレベルアップを図り、医療の安全と質の向上を推進する。 診療情報の提供においては、ぎふ清流ネットを活用して、検査結果や放射線検査画像等を地域の医療機関に迅速に提供し、病診連携などの医療体制の強化を図る。	な評価を継続した。 ○分析報告会の実施状況とコンサルティング委託費用 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分析報告会 開催回数</td><td>10</td><td>9</td><td>10</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr> <td>定量評価</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr> <td>委託費用 (千円)</td><td>2,777</td><td>2,999</td><td>3,109</td><td>2,933</td><td>2,933</td></tr> </tbody> </table>	項目	R2	R3	R4	R5	R6	分析報告会 開催回数	10	9	10	9	10	定量評価	○	○	○	○	○	委託費用 (千円)	2,777	2,999	3,109	2,933	2,933			
項目	R2	R3	R4	R5	R6																								
分析報告会 開催回数	10	9	10	9	10																								
定量評価	○	○	○	○	○																								
委託費用 (千円)	2,777	2,999	3,109	2,933	2,933																								
08	1 質の高い臨床研修医の養成等 最先端の医療技術・知識の取得のため、各種学会や研修会、講習会等へ参加できるよう支援する。 優秀な臨床研修医を確保・育成するため、岐阜県医師育成・確保コンソーシアム及び岐阜医療圏地域コンソーシアムとの連携や各種研修シミュレーターの導入等により、研修指導医の養成を図るとともに、独自の臨床研修プログラムを充実させる。また、当センター独自の医学生向けの説明会を開催する。当センターの研修プログラムにマッチングした研修医に対しては、医師は勿論のこと、看護師、薬剤師、その他コメディカル、事務職員等、当センターのすべての職員が研修医の教育に関わり、チーム医療の一員としての優秀な医師の養成を支援する。 2 専攻医の育成等 2018年度に開始された新専門医制度の下、研修基幹施設として、内科、小児科、整形外科の専攻医に対する研修を実施する。 この専攻医に対しては、専門医取得に向けた当センター独自の研修プログラムにより、スムーズに専門医取得ができるように推進する。また、岐阜医療圏地域コンソーシアム及び研修協力病院との連携や、看護部、中央検査部、中央放射線部、薬		III		研修医、専攻医の獲得・養成は岐阜県においては喫緊の課題です。今後の県全体の医療が成長するか否かにかかわる、根源的問題と言ってもいいかもしれません。一方、県総合医療センターは岐阜圏域のみならず、県全体の医療水準の向上に資する使命も帯びています。そうした背景のもと、臨床研修医数は厚労省の管轄下であるためいかんともしいが、専攻医数は基幹病院として、増加させることが可能性だと思います。プログラムが内科、小児科、整形外科しかないのは、外科等、その他の科の診療実績から見ておかしいと思います。何科においても、県全体で専攻医数が増えることによるデメリットは全くないので、是非積極的に専攻医プログラム新設を進めていただきたいと思います。																								

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見
	剤部等病院内の各部署の協力を得て、研修プログラムの充実を図るとともに、チーム医療が円滑に行えるよう支援する。さらに、専門医取得に向けて各種学会、研究会等への参加について支援する。				
10	2 医師不足地域や医師不足診療科、へき地診療所等への人的支援を含む診療支援による県全体の医療の確保 へき地医療拠点病院として、医師不足地域や医師不足診療科、へき地診療所等への診療支援（人的支援）を継続して実施する。		Ⅲ		県立病院同士の更なる連携を期待。 全体的にはⅢ相当と思われますが、医師不足地域への医師派遣、へきち医療支援は十分とは言えないと思います。過去に大学医局が果たしていた役割が、医局制度の解体で不可能になったのが根本原因ですが、それを代行するのが、県全体の医療向上を使命とする県総合医療センターだと思います。したがって、医師の派遣により、県総合医療センターの一部の科の診療実績が落ちても、県全体でみれば、困っているところが助かるわけですから、良しとしていただいてよいのではないのでしょうか？と昨年記載しましたが、変化がないように見られます。
13	2 基幹災害拠点病院としての機能強化及び指導的役割の推進 地域の災害拠点病院や消防機関と連携し、災害医療の教育・研修・訓練を実施する。また、既存の食料等の優先納入契約を継続するとともに必要に応じて見直しを行う。	2 基幹災害拠点病院としての機能強化及び指導的役割の推進 ・災害時における医療体制の連携強化のため、岐阜市民病院と被害状況及び災害体制についての情報共有訓練を実施した。 ・事件現場における傷病者の発生に対し、応急的な治療を行うことで救命率を向上させるため、岐阜県警察と事件現場医療派遣チーム（IMAT）の運用に関する協定を継続した。また、協定に基づき、岐阜県警察学校で実施された「人質立てこもり事件対応訓練」に参加した。	Ⅳ		

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見				
15	2 診療情報のバックアップシステムの適正管理 大規模災害やシステム障害に備え、院内2か所の電算室において二重化している診療情報データや遠隔地へバックアップを行っている診療情報データの適正な維持管理に努める。 また、各部署へ配備した診療情報参照用パソコン（ローカルSS-MIXストレージ）の適正な維持管理に努める。	2 診療情報のバックアップシステムの適正管理 ・大規模災害やシステム障害に備え、院内2か所の電算室と遠隔地へバックアップを行っている診療情報データの適正な維持管理に努めた。また、各部署へ配備した診療情報参照用パソコン（ローカルSS-MIXストレージ）の適正な維持管理に努めた。 また、サイバー攻撃等によりシステムが利用できなくなる障害に備え医療総合情報システム事業継続計画（IT-BCP）を策定した。	IV						
16	1 新型インフルエンザ等発生時における受入れ体制の整備 2019年度末から発生している COVID-19 に対して、感染が収束するまでの間岐阜県の要請に応じて、必要な病床を確保し、患者の受入れに必要な人員体制の整備、物資等の確保を行う。 新型インフルエンザ等対策特別措置法における指定地方公共機関として、同法及び業務計画に定めるところにより、岐阜県、関係市町及び医療機関と相互に連携・協力し、新型インフルエンザ等対策の実施に努める。 また、感染症法に基づき岐阜県と締結する医療措置協定により、平時における必要な物資及び資材の備蓄・整備・点検並びに施設及び設備の整備・点検、発生時における病床、人員の確保を行い、当センターの体制を確保する。	1 新型インフルエンザ等発生時における受入体制の整備 ・令和2年2月に立ち上げた COVID-19 対策本部を継続し、病院幹部と各部門責任者、感染対策部メンバー等にて2か月に1回程度開催した。 ・診療・検査医療機関として、発熱外来を設置し発熱患者のトリアージを継続した。 ・第一種、第二種協定指定医療機関として、5階西病棟を COVID-19 患者受入れ病棟として確保することに加え、診療体制を患者数に応じたものに強化した。 また、専用病棟以外でも受入れが出来るよう準備を進め、受入れを行った。 ○COVID-19 診療体制 <table><tr><td>軽症～中等症Ⅰ</td><td>当該科</td></tr><tr><td>中等症Ⅱ以上</td><td>呼吸器内科・感染症内科の交代制</td></tr></table> ・マスク・ガウン・消毒薬等の必要物資の調達・備蓄に努めた。 ・通院中の外来患者、入院患者に対する COVID-19 ワクチン接種に取り組んだ。 ・COVID-19 院内感染を未然に防止するため、職員からの発熱等の報告に対して迅速に対応する体制を整え、状況把握に努めた。 ・外来や病棟で COVID-19 陽性の患者や職員が出た際には、周囲の患者、職員の接触状況を確認してリスクがある方に対し検査を実施し、感染対策部の主導のもと、看護部、各診療科の医師、各部門・部署の所属長等が協力して行う体制を整備して、感染拡大を防止できた。 ・院内職員に対する COVID-19 ワクチンの接種を病院一部費用負担のもと希望者に対して実施し、安全な医療を提供できる体制を整えた。	軽症～中等症Ⅰ	当該科	中等症Ⅱ以上	呼吸器内科・感染症内科の交代制	IV		
軽症～中等症Ⅰ	当該科								
中等症Ⅱ以上	呼吸器内科・感染症内科の交代制								

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																															
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																														
18	1 レスパイトケアのための短期入所機能の継続 在宅で重症心身障がい児を抱える家族の精神的・身体的負担の軽減を図るため、医療型障害児入所施設内の空床利用による短期入所機能を継続する。	1 レスパイトケアのための短期入所機能の継続 ・重症心身障がい児（者）の在宅療養が増える傾向にあり、保護者等の介護の負担軽減と児（者）への良好な療養環境の提供を目指して、段階的に短期入所を増床して受入人数を増やした。 ・利用延べ人数は前年度比 41%の増、利用延べ日数は前年比 20.1%の増となっており、利用が大幅に増加した。 ○短期入所定員数（空床利用型）の推移 <table><tr><td>H28. 7～H29. 10</td><td>定員 2 人</td></tr><tr><td>H29. 11～R5. 1</td><td>定員 3 人</td></tr><tr><td>R5. 2～R5. 4</td><td>定員 4 人</td></tr><tr><td>R5. 5～R5. 9</td><td>定員 5 人</td></tr><tr><td>R5. 10～</td><td>定員 6 人</td></tr></table> ○短期入所施設の利用状況 <table><tr><td>項目/年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>契約者数</td><td>92 人</td><td>97 人</td><td>106 人</td><td>107 人</td><td>107 人</td></tr><tr><td>利用延べ人員</td><td>97 人</td><td>123 人</td><td>172 人</td><td>246 人</td><td>347 人</td></tr><tr><td>利用延べ日数</td><td>465 日</td><td>541 日</td><td>809 日</td><td>1, 283 日</td><td>1, 541 日</td></tr><tr><td>利用率</td><td>42. 5%</td><td>49. 4%</td><td>70. 1%</td><td>64. 7%</td><td>70. 3%</td></tr><tr><td>予約率</td><td>85. 5%</td><td>78. 7%</td><td>82. 4%</td><td>73. 7%</td><td>80. 0%</td></tr></table> 2 家族に対する在宅医療指導等の実施 ・重症心身障がい児の在宅移行に向けて、家族の障がいの受容や在宅療育に必要な技術等を指導するための教育入所用居室 2 室の確保や指導マニュアルの作成等、受入体制を整えた。 ・在宅生活を支援する地域の医療機関や福祉サービス事業者等との連携会議を 2 回開催され、在宅医療指導等実施施設として参加し、在宅移行への課題を解決して円滑な在宅移行を達成することができた。	H28. 7～H29. 10	定員 2 人	H29. 11～R5. 1	定員 3 人	R5. 2～R5. 4	定員 4 人	R5. 5～R5. 9	定員 5 人	R5. 10～	定員 6 人	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	契約者数	92 人	97 人	106 人	107 人	107 人	利用延べ人員	97 人	123 人	172 人	246 人	347 人	利用延べ日数	465 日	541 日	809 日	1, 283 日	1, 541 日	利用率	42. 5%	49. 4%	70. 1%	64. 7%	70. 3%	予約率	85. 5%	78. 7%	82. 4%	73. 7%	80. 0%	IV		
H28. 7～H29. 10	定員 2 人																																																		
H29. 11～R5. 1	定員 3 人																																																		
R5. 2～R5. 4	定員 4 人																																																		
R5. 5～R5. 9	定員 5 人																																																		
R5. 10～	定員 6 人																																																		
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																														
契約者数	92 人	97 人	106 人	107 人	107 人																																														
利用延べ人員	97 人	123 人	172 人	246 人	347 人																																														
利用延べ日数	465 日	541 日	809 日	1, 283 日	1, 541 日																																														
利用率	42. 5%	49. 4%	70. 1%	64. 7%	70. 3%																																														
予約率	85. 5%	78. 7%	82. 4%	73. 7%	80. 0%																																														

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																									
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																								
		○教育入所受入数 <table border="1"> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>実人数</td><td>2 人</td><td>3 人</td><td>1 人</td><td>3 人</td><td>4 人</td></tr> <tr> <td>延べ日数</td><td>126 日</td><td>220 日</td><td>58 日</td><td>151 日</td><td>414 日</td></tr> </table>	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	実人数	2 人	3 人	1 人	3 人	4 人	延べ日数	126 日	220 日	58 日	151 日	414 日									
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																								
実人数	2 人	3 人	1 人	3 人	4 人																								
延べ日数	126 日	220 日	58 日	151 日	414 日																								
19	3 ICT（情報通信技術）の活用等による経営効率の高い業務執行体制の充実 人事給与システム、勤怠管理システム、旅費システム、医事会計システム、財務会計システム等の機能の見直しを随時行うとともに、各部門において働き方改革（業務の効率化）につながる新たなシステムの導入を推進する。また、定年を迎えた職員のうち、病院経営に寄与すると認められる職員を再雇用することで、質の高い業務執行を推進する。	3 ICT（情報通信技術）の活用等による経営効率の高い業務執行体制の充実 ・人事給与システムの活用や旅費計算ソフトにより、業務の効率化を図った。 ・令和3年4月に移働開始した新人事給与システムにて、専用回線を利用したセキュリティの向上や給与計算等の処理時間の短縮を図った。また、職員の勤怠管理を適正に行うため、勤怠管理システム（タイムレコーダー）を継続した。 ・COVID-19 に対応するため、各種研修会をオンデマンド形式で配信することが出来るシステムや小規模な会議等に対応できるオンライン会議システムを活用した。 ・事務部門における定型業務を自動化し、業務の負担軽減を図るため、RPA を導入した。各部署から洗い出した自動化可能な 74 業務のうち、18 業務がツールによって自動化された。 ・定年を迎えた事務職員のうち、病院経営に寄与すると認められる職員を再雇用及び定年延長し、質の高い業務執行に努めた。 ○事務職員再雇用職員数 <table border="1"> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>再雇用</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr> <td>定年延長</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>8</td><td>9</td><td>9</td><td>8</td><td>8</td></tr> </table>	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	再雇用	8	8	8	7	7	定年延長	0	1	1	1	1	合計	8	9	9	8	8	IV		
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																								
再雇用	8	8	8	7	7																								
定年延長	0	1	1	1	1																								
合計	8	9	9	8	8																								
20	1 人員配置の検証及び弾力的運用 各職種の職員 1 人あたりの医業収入推移等を検証した上で、医療需要の動向や経営状況の変化に迅速かつ的確に対応した診療科の変更、各職種の人員配置を弾力的に行う。	1 人員配置の検証及び弾力的運用 ・平成 27 年度をベースとした各職種の職員 1 人あたりの医業収入推移を検証し、医療需要と経営状況のバランスを検討した上で、各職種の人員配置を弾力的に行った。 ○各職種の職員 1 人あたりの医業収入 <table border="1"> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </table>	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	IV																				
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																								

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価						評価委員会の検証																																																		
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）						自己 評価	評価 提案	意見																																																
		<table><tr><td>医師</td><td>98.1</td><td>107.3</td><td>105.4</td><td>106.0</td><td>109.8</td></tr><tr><td>看護師</td><td>95.1</td><td>102.1</td><td>105.1</td><td>104.8</td><td>108.2</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>120.1</td><td>119.4</td><td>132.5</td><td>135.1</td><td>140.1</td></tr><tr><td>臨床検査技師</td><td>81.7</td><td>94.7</td><td>93.2</td><td>82.5</td><td>83.6</td></tr><tr><td>放射線技師</td><td>81.5</td><td>80.8</td><td>74.8</td><td>66.3</td><td>65.4</td></tr><tr><td>リハビリ技師</td><td>78.2</td><td>77.7</td><td>71.7</td><td>77.5</td><td>78.3</td></tr><tr><td>管理栄養士</td><td>114.0</td><td>106.9</td><td>97.3</td><td>109.4</td><td>108.2</td></tr><tr><td>臨床工学技士</td><td>39.1</td><td>42.4</td><td>32.5</td><td>33.6</td><td>36.0</td></tr></table> ※数値は平成 27 年度をベースとした伸び率						医師	98.1	107.3	105.4	106.0	109.8	看護師	95.1	102.1	105.1	104.8	108.2	薬剤師	120.1	119.4	132.5	135.1	140.1	臨床検査技師	81.7	94.7	93.2	82.5	83.6	放射線技師	81.5	80.8	74.8	66.3	65.4	リハビリ技師	78.2	77.7	71.7	77.5	78.3	管理栄養士	114.0	106.9	97.3	109.4	108.2	臨床工学技士	39.1	42.4	32.5	33.6	36.0			
医師	98.1	107.3	105.4	106.0	109.8																																																					
看護師	95.1	102.1	105.1	104.8	108.2																																																					
薬剤師	120.1	119.4	132.5	135.1	140.1																																																					
臨床検査技師	81.7	94.7	93.2	82.5	83.6																																																					
放射線技師	81.5	80.8	74.8	66.3	65.4																																																					
リハビリ技師	78.2	77.7	71.7	77.5	78.3																																																					
管理栄養士	114.0	106.9	97.3	109.4	108.2																																																					
臨床工学技士	39.1	42.4	32.5	33.6	36.0																																																					
21	1 人事評価システムによる公平かつ客観的な人事制度の運用 人事評価システムにより職員の業績、職務能力、職責等を公正に評価するとともに、職員本人へ評価結果をフィードバックすることにより、職員の意欲が引き出される公平かつ客観的な人事制度の運用に努める。	1 人事評価システムによる公平かつ客観的な人事制度の運用 ・人事評価システムにより職員の業績、職務能力、職責等を公正に評価し、職員の意欲が引き出される公平かつ客観的な人事制度の運用に努めた。 ・目標評価については、目標の困難度と達成度を判定することにより、公平かつ客観的な評価を図った。また、6月支給の勤勉手当において、目標評価の成績優秀者にはその結果を手当に反映した。						IV																																																		
22	1 事務部門職員の確保及び育成 経営管理機能を強化するため、病院特有の事務に幅広く精通した職員を計画的に確保・育成する。 また、各分野の専門性の向上を図るため、診療報酬等の医事業務や診療情報分析、病院経営に係る財務経営分析、危機管理等専門性の高い業務に関する研修への参加及び診療情報管理士や医療経営士等の病院運営に寄与する資格取得を支援する。	1 事務部門職員の確保及び育成 ・専門性の向上のため、職務に関連する研修の実施や資格取得を支援する「事務局職員人材育成計画」に沿って、医療経営士の資格取得に向けた研修を受講させた。 ○事務職員の状況（年度末時点） 単位：人 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td>プロパー職員</td><td>67</td><td>67</td><td>67</td><td>70</td><td>68</td></tr><tr><td>うち、診療情報管理士</td><td>10</td><td>9</td><td>9</td><td>10</td><td>10</td></tr><tr><td>うち、医療経営士</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>うち、院内がん登録実務中級認定者</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>県派遣職員</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>合計</td><td>70</td><td>69</td><td>69</td><td>72</td><td>70</td></tr></table>						項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	プロパー職員	67	67	67	70	68	うち、診療情報管理士	10	9	9	10	10	うち、医療経営士	2	2	2	3	3	うち、院内がん登録実務中級認定者	2	2	2	2	2	県派遣職員	3	2	2	2	2	合計	70	69	69	72	70	IV								
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																					
プロパー職員	67	67	67	70	68																																																					
うち、診療情報管理士	10	9	9	10	10																																																					
うち、医療経営士	2	2	2	3	3																																																					
うち、院内がん登録実務中級認定者	2	2	2	2	2																																																					
県派遣職員	3	2	2	2	2																																																					
合計	70	69	69	72	70																																																					

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																															
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																														
23	1 業務執行におけるコンプライアンスの徹底 医療法をはじめとする国の法令や関係規程、法人が定める倫理方針や各種規程を遵守することで、保健所や厚生局からの立入検査及び指導に適切に対応する。 また、監事監査、内部監査、会計監査人監査等の実施により、チェック体制を確立し、コンプライアンスを確実なものとする。 岐阜県情報公開条例に基づく公文書の公開及び個人情報の保護に関する法律その他法人規程に基づくカルテ等医療情報の開示を着実に行之、医療の透明性を確保するとともに、医療情報提供の環境を整備する。	1 業務執行におけるコンプライアンスの徹底 ・新規採用職員に対して個人情報保護に関する研修を行った。 ・全職員を対象にした個人情報保護に関する研修をオンデマンド形式で複数回実施し、トータルで1,568人が参加、受講率100%となった。 ・医療倫理に関する研修をオンデマンド形式で配信し、1,301人の職員の参加を得た。 ○各種研修受講状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">個人情報保護</td><td>1,055</td><td>996</td><td>1,192</td><td>1,569</td><td>1,568</td></tr> <tr> <td>70.9</td><td>67.1</td><td>82.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td rowspan="2">医療倫理</td><td>1,380</td><td>1,430</td><td>1,415</td><td>1,451</td><td>1,301</td></tr> <tr> <td>99.6</td><td>99.9</td><td>97.5</td><td>97.8</td><td>82.9</td></tr> </tbody> </table> ※上段：受講延べ数（単位：人）、下段：受講率（単位：％） ・監事監査（隔月実施）、会計監査人監査（年4回実施）及び内部監査の実施により、コンプライアンスを徹底した。 ・患者や家族からの請求による個人情報の開示を適切に行った。 ○カルテ開示請求・開示件数 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>請求件数</td><td>185</td><td>244</td><td>226</td><td>228</td><td>211</td></tr> <tr> <td>開示件数</td><td>180</td><td>234</td><td>223</td><td>217</td><td>203</td></tr> </tbody> </table>	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	個人情報保護	1,055	996	1,192	1,569	1,568	70.9	67.1	82.0	100.0	100.0	医療倫理	1,380	1,430	1,415	1,451	1,301	99.6	99.9	97.5	97.8	82.9	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	請求件数	185	244	226	228	211	開示件数	180	234	223	217	203	IV		医療倫理の研修受講率(82.9%)の改善が望まれる。
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																														
個人情報保護	1,055	996	1,192	1,569	1,568																																														
	70.9	67.1	82.0	100.0	100.0																																														
医療倫理	1,380	1,430	1,415	1,451	1,301																																														
	99.6	99.9	97.5	97.8	82.9																																														
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																														
請求件数	185	244	226	228	211																																														
開示件数	180	234	223	217	203																																														
24	2 情報セキュリティに対する意識向上 職員に対する情報セキュリティ研修及び啓発を行い、情報セキュリティ意識の向上を図る。	2 情報セキュリティに対する意識向上 ・新規採用職員に対する情報セキュリティ研修を実施するとともに、「情報セキュリティ通信」及び情報セキュリティに関する周知文書を随時発行することにより全職員への啓発を行い、情報セキュリティ意識の向上を図った。 ・サイバーセキュリティ対策について、岐阜県警、岐阜県医療整備課と合同で、サイバーインシデント対応研修を1月に実施した。病院長をはじめ、医師、看護師、コメディカル、事務等合計43人が参加し、サイバーインシデントの現状を把握すると共に、実際にサイバー攻撃を受け、電子カルテシステムが利用できないことを想定した初動訓練を実施した。	IV																																																

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																				
25	1 調達の効率化及び適正な契約事務の実施 業務内容の集約化・簡素化・迅速化・費用削減等の提案を評価するプロポーザル方式による業者選定をはじめ、複数年契約や関連性のある業務の包括委託化等多様な契約手法の導入を検討する。また、複数年契約を行うことによるメリットの有無を検討し、メリットがあるものについては、積極的に複数年契約の締結を行う。	1 調達の効率化及び適正な契約事務の実施 ・経営分析等を行うことで、薬品や診療材料の購入価格や委託業務の複数年契約等の経営改善すべき点の把握に努め、効率的な病院運営を図るための方策等を検討した。 ・複数メーカーの機種選定を進め、ベンチマークを活用した交渉による医療機器の購入を行い、当初の予定金額より年間約7千万円のコスト削減ができた。 ・診療材料について、ベンチマークを活用して新規採用品目の価格を抑えるとともに、既存使用品目も継続して価格交渉を行い、節減効果を維持した。 ・医薬品について、経費圧縮等に関するアドバイザーの活用により、継続的な価格交渉を行い、経費削減を図った。 ・複数年契約が終了する一部の業務委託において、その評価を行うとともに、経営的にメリットのある契約手法を検討し、次期契約の締結を行った。 ○複数年契約の推移 単位：件 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>契約数</td><td>16</td><td>21</td><td>36</td><td>20</td><td>37</td></tr> </tbody> </table>	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	契約数	16	21	36	20	37	IV																										
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																				
契約数	16	21	36	20	37																																				
26	2 医療資源を最大限活用した施設基準等の適正管理 収益の向上を図るため、2024年度診療報酬改定を踏まえ、人的な医療資源を最大限活用した新たな施設基準の取得を積極的に検討する。また、既に届け出た施設基準やDPC病院群の要件指標を定期的に確認し、その安定的な維持に努める。 3 未収金の発生防止対策等 診療費に係る未収金の発生防止対策として、緊急に入院となった患者への支払相談の早期着手、患者同意のもとで行う保険や限度額適用認定証のオンライン確認等により、未収金発生の未然防止を徹底する。 また、支払に関する相談に応じる体制の確保に	2 医療資源を最大限活用した施設基準等の適正管理 ・地域医療支援病院入院診療加算（紹介率：50%以上、逆紹介率：70%以上）の算定基準（要件）を大幅に超えることができた。 ・DPC 特定病院群の各種要件（診療密度、外保連指数、内保連疾患割合）について、毎月状況を確認し、各数値の維持に努めた。 ○各種指標の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td><td>70.0%</td><td>71.9%</td><td>67.2%</td><td>74.3%</td><td>78.3%</td></tr> <tr> <td>逆紹介率</td><td>97.6%</td><td>110.5%</td><td>107.9%</td><td>111.2%</td><td>114.2%</td></tr> <tr> <td>診療密度</td><td>1,329.9</td><td>1,427.4</td><td>1,378.9</td><td>1,408.9</td><td>1,417.1</td></tr> <tr> <td>外保連指数</td><td>15.52</td><td>15.53</td><td>15.63</td><td>15.45</td><td>15.74</td></tr> <tr> <td>内保連疾患割合</td><td>2.4%</td><td>3.1%</td><td>2.8%</td><td>2.6%</td><td>2.9%</td></tr> </tbody> </table> 3 未収金の発生防止対策等 <発生防止> ・入院説明の際に、入院決定時に概算費用の提示や福祉制度の説明等を行った。	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	紹介率	70.0%	71.9%	67.2%	74.3%	78.3%	逆紹介率	97.6%	110.5%	107.9%	111.2%	114.2%	診療密度	1,329.9	1,427.4	1,378.9	1,408.9	1,417.1	外保連指数	15.52	15.53	15.63	15.45	15.74	内保連疾患割合	2.4%	3.1%	2.8%	2.6%	2.9%	IV		
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																				
紹介率	70.0%	71.9%	67.2%	74.3%	78.3%																																				
逆紹介率	97.6%	110.5%	107.9%	111.2%	114.2%																																				
診療密度	1,329.9	1,427.4	1,378.9	1,408.9	1,417.1																																				
外保連指数	15.52	15.53	15.63	15.45	15.74																																				
内保連疾患割合	2.4%	3.1%	2.8%	2.6%	2.9%																																				

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																																																
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																																															
	加え、現金又はクレジットカード以外の支払手法の拡大を検討する。 やむなく未収金となった場合には、支払計画の作成を促すとともにその履行を確認し、早期の督促、催告を実施する。あわせて回収が困難と見込まれる未収金については、2010年度末に開始した債権回収業務委託（弁護士法人）を引き続き実施し、効果的、効率的な未収金回収に努める。 5 効率的な資金運用 現金の保管方法について、安定した債券の取得等による効率的かつ有利な資金運用を継続する。	また、入院患者には原則として限度額認定証の提示を求めていることを説明し、その手続きを依頼した。 ・救急搬送患者に対しては、医療相談員が身元確認、保険確認を早期に行い、医療保険制度の活用を紹介するなど高額な患者負担額とならないよう努めた。 ・出産に伴う入院費については、出産一時金直接払制度を利用していただくよう徹底を図った。制度の利用が困難な事案については、医療相談員が早期に介入し、退院時の支払いが出来るよう支援を行った。 <回収> ・毎月3回、定期に督促状を發布し、早期に未収金回収に着手した。 ・督促状發布後、随時催告状を発送するとともに必要に応じ夜間電話催告や臨宅催告を行った。 ・未納者が受診した際には、面談による納付催告を実施した。 ・回収困難な未収金について、弁護士法人に回収業務を委託し、回収の実績を上げた。 ・診療費を分納により支払っている患者について、令和2年8月より直接納付から金融機関口座振替への切替えを進める取組みを継続し、確実な収納に努めた。 ○回収実績（年度末現在） <table><tr><th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td>累積委託金額 (単位：千円)</td><td>199,628</td><td>201,662</td><td>205,233</td><td>215,571</td><td>232,538</td></tr><tr><td>累積回収金額 (単位：千円)</td><td>91,071</td><td>94,062</td><td>96,006</td><td>99,224</td><td>102,093</td></tr><tr><td>累積回収率 (単位：%)</td><td>45.6</td><td>46.6</td><td>46.8</td><td>46.0</td><td>43.9</td></tr><tr><td>単年度回収金額 (単位：千円)</td><td>5,766</td><td>2,986</td><td>1,943</td><td>3,219</td><td>2,868</td></tr></table> ○未収金発生状況（翌年度5月末現在） <table><tr><th></th><th colspan="2">R2</th><th colspan="2">R3</th><th colspan="2">R4</th><th colspan="2">R5</th><th colspan="2">R6</th></tr><tr><th></th><th>件数</th><th>金額 (千円)</th><th>件数</th><th>金額 (千円)</th><th>件数</th><th>金額 (千円)</th><th>件数</th><th>金額 (千円)</th><th>件数</th><th>金額 (千円)</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	累積委託金額 (単位：千円)	199,628	201,662	205,233	215,571	232,538	累積回収金額 (単位：千円)	91,071	94,062	96,006	99,224	102,093	累積回収率 (単位：%)	45.6	46.6	46.8	46.0	43.9	単年度回収金額 (単位：千円)	5,766	2,986	1,943	3,219	2,868		R2		R3		R4		R5		R6			件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)														
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																															
累積委託金額 (単位：千円)	199,628	201,662	205,233	215,571	232,538																																																															
累積回収金額 (単位：千円)	91,071	94,062	96,006	99,224	102,093																																																															
累積回収率 (単位：%)	45.6	46.6	46.8	46.0	43.9																																																															
単年度回収金額 (単位：千円)	5,766	2,986	1,943	3,219	2,868																																																															
	R2		R3		R4		R5		R6																																																											
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)																																																										

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価										評価委員会の検証																										
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）										自己 評価	評価 提案	意見																								
		過年度分	348	42,633	289	38,748	386	24,469	485	43,583	563	48,010																										
		現年度分	232	15,183	281	22,686	332	41,398	302	22,454	257	12,447																										
		合計	580	57,816	570	61,434	718	65,867	787	66,037	820	60,457																										
		5 効率的な資金運用 ・年度末支払い等の支払いのため、保有債券の8億円分を売却した。 ・保有している債券から発生した今年度の利息は、約7千万円だった。																																				
27	1 医薬品・診療材料等の購入方法の見直し及び適正な在庫管理の徹底 医薬品及び診療材料については、ベンチマーク及び外部アドバイザーの活用により、価格交渉を行うとともに、より安価で適正な品質の同種同効品への切り替えを推進し、購入費の削減に努める。 また、物流システムによる医薬品及び診療材料の定数設定・在庫管理を行いながら、定期的に棚卸を実施し、適正な管理を行う。 3 経費の削減 各種委託契約の入札条件及び契約方式を十分検討することにより委託料や光熱水費等の削減を目指す。また、電気料金の削減を目的として、引き続き照明のLED化を進めていく。複数年契約が終了する契約については、次期契約の契約方式の検討を行い、新たな契約を締結する。さらに、医療機器等の保守料については、医療的な安全性を十分に考慮した上で、必要最小限となるように努める。	1 医薬品・診療材料等の購入方法の見直し及び適正な在庫管理の徹底 ・医薬品については、アドバイザー活用による情報収集により価格交渉を実施し、年間薬価差益が約2億4千万円となった。 ・診療材料については、ベンチマークを活用して価格交渉を実施し、当初の予定金額より年間約7,600万円のコスト削減ができた。 ・各部署における診療材料の定数配置について、継続的に品目及び数量の見直しを行い、効率的な管理を推進した。 ○医薬収益に対する材料費比率 単位：％ <table><tr><td>項目/年度</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>材料費比率 ※</td><td>30.4</td><td>30.9</td><td>30.7</td><td>31.4</td><td>32.0</td></tr><tr><td>（うち薬品費）</td><td>16.2</td><td>16.2</td><td>16.4</td><td>16.6</td><td>17.7</td></tr><tr><td>（うち診療材料費）</td><td>14.2</td><td>14.6</td><td>14.3</td><td>14.8</td><td>14.3</td></tr></table> ※重症心身障がい児施設を除く 3 経費の削減 ・無駄な電気利用を抑制するため、空調・照明の管理スケジュールの変更、空調の温度設定の見直し等のシステム的な対応を行った。 ・電気使用量の削減を目的に、階段照明及び外来駐車場等のLED化工事を実施した。なお、階段照明に関しては、省エネ対策として有効な人感センサーライトを採用した。 ・令和6年度には、委託費等の経費削減を目的としたローコストオペレーションコンサルティング契約を締結し、業者との交渉の結果、年間約700万円の削減効果を得た。										項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	材料費比率 ※	30.4	30.9	30.7	31.4	32.0	（うち薬品費）	16.2	16.2	16.4	16.6	17.7	（うち診療材料費）	14.2	14.6	14.3	14.8	14.3	IV		
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																	
材料費比率 ※	30.4	30.9	30.7	31.4	32.0																																	
（うち薬品費）	16.2	16.2	16.4	16.6	17.7																																	
（うち診療材料費）	14.2	14.6	14.3	14.8	14.3																																	

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																					
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																																				
		○経費関連数値の年度推移 <table> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>経費率（単位：％）</td><td>15.8</td><td>15.2</td><td>16.7</td><td>15.8</td><td>15.8</td></tr> <tr> <td>光熱水費（単位：百万円）</td><td>322</td><td>359</td><td>636</td><td>462</td><td>547</td></tr> </table>	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	経費率（単位：％）	15.8	15.2	16.7	15.8	15.8	光熱水費（単位：百万円）	322	359	636	462	547																					
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																				
経費率（単位：％）	15.8	15.2	16.7	15.8	15.8																																				
光熱水費（単位：百万円）	322	359	636	462	547																																				
29	1 育児・介護との両立支援や離職防止・復職支援体制の充実 24時間保育や病児・病後児保育を継続的に実施することで、育児中の職員が安心して勤務できる環境をつくる。また、保育の質の向上や運営体制の充実等を図るため、より良い保育環境の整備に取り組む。 離職防止としては、看護師定着プログラムを継続的に実施する。 また、ワークライフバランスの実現に向け、出産・育児の支援制度に関する手引きの改正・周知等により、女性職員のみならず全ての職員が働きやすい労働環境の改善について引き続き検討する。 さらに、仕事と生活をともに充実したものとするため、1箇月単位の変形労働時間制の利点を活かし、時間外勤務時間の縮減に取り組むとともに、年次有給休暇は年10日以上を取得を目標とし、特別休暇の取得促進、代休の取得や週休日の振替の徹底等、適切な労働時間の管理の下、職員の勤務環境に配慮する。 2 働き方改革の実現に向けた取組 「働き方改革推進計画」や「医師労働時間短縮計画」に基づき、タイムレコーダー等の活用により労働管理を適正に行うとともに、働き方改革の	1 育児・介護との両立支援や離職防止・復職支援体制の充実 ・保育施設については、平成24年2月から24時間保育を継続している。また、病児・病後児保育施設の利用者についても、定員を増員したり、利用資格の拡大を実施したことで、多くの職員が利用できている。 ・ハラスメント防止に向けて、2つの院内相談窓口の設置や専用アドレスの運用を継続した。 ・女性職員が働きやすい労働環境への改善に向け、「女性職員が継続して働ける病院づくり委員会」にて、令和7年4月からの5カ年を期間とする次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画及び女性活躍推進法に基づく行動計画を策定した。 ・衛生・労働安全委員会で、長時間残業職員数を報告し、現状把握と縮減に向けた啓発に努めた。 ・看護師のみならず医師やコメディカルについても、変形労働時間制による勤務を採用することにより、時間外勤務時間の縮減に努めた。 ・年10日以上の子休取得目標を病院全体で推進し、年次休暇の取得日数が芳しくない職員には個別に取得促進を指導した。 ○院内保育所の運営状況（年度末現在） ・入所施設（こばと） 単位：人 <table> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>入所者数</td><td>34</td><td>44</td><td>34</td><td>43</td><td>35</td></tr> <tr> <td>保育士数</td><td>16</td><td>18</td><td>18</td><td>19</td><td>19</td></tr> </table> ・病児・病後児保育施設（バンビ） 単位：人 <table> <tr> <th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>延べ利用者数</td><td>86</td><td>169</td><td>156</td><td>387</td><td>317</td></tr> <tr> <td>保育士・看護師数</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td></tr> </table>	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	入所者数	34	44	34	43	35	保育士数	16	18	18	19	19	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	延べ利用者数	86	169	156	387	317	保育士・看護師数	3	3	3	3	2	IV		
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																				
入所者数	34	44	34	43	35																																				
保育士数	16	18	18	19	19																																				
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																																				
延べ利用者数	86	169	156	387	317																																				
保育士・看護師数	3	3	3	3	2																																				

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																													
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見																												
	実現に向けたドクターズアシスタント（医師事務作業補助者）の拡充及び能力開発をはじめ、看護補助者の安定確保、特定行為看護師やコメディカルの活用等によるタスクシフト／シェア等による業務効率化を推進する。特に、医師の働き方改革については、2024年4月から開始された時間外労働上限規制に対して、必要な取組を実施する。 3 職員のモチベーション向上に資する取組 職員提案箱や職員調等により職員のニーズを把握し必要に応じて対策を講じていくとともに、人事評価制度や職員表彰制度による公平で客観的な評価を実施した上で、評価結果に対する処遇反映のあり方について検討し、病院で働く全ての職員が誇りを持って職責が果たせるよう、やりがいの創出に努める。 また、職員満足度の結果を踏まえ、数値の向上に向けた取組を実施する。	○職員1人あたりの休暇、時間外勤務状況 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td>年次有給休暇 (単位：日/年)</td><td>10.9</td><td>12.8</td><td>14.4</td><td>15.2</td><td>14.9</td></tr><tr><td>時間外勤務 (単位:時間/月)</td><td>11.9</td><td>13.1</td><td>12.7</td><td>11.6</td><td>10.9</td></tr></table> ※夏季休暇等の取得数も含む（令和2年度以前） ○医師1人あたりの時間外勤務状況 <table><tr><th>項目/年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr><tr><td>時間外勤務 (単位:時間/月)</td><td>40.91</td><td>41.04</td><td>42.38</td><td>40.30</td></tr></table> 2 働き方改革の実現に向けた取組 ・職員（医師除く）の労働時間の適正な把握に向けて、タイムレコーダー（IDカードによる打刻システム）を継続した。 ・医師の勤怠管理に向けてクラウド型システム（Dr. joy）により、ピーコンでの自動打刻及び時間外勤務時間や年次休暇等の休暇について電子申請（承認）を継続した。 ・医師の労働時間短縮に向け、「医師の働き方改革に関するワーキンググループ」会議における議論を踏まえ策定した業務と自己研さんの区分に基づき、取り組んだ。 ・医師の負担軽減に向け、医師と医療支援部門職員との間でタスク・シフト／シェアを推進するとともに、随時項目の洗い出しを行った。 ・医師の業務負担軽減に向けたスク・シフト／シェアを進めるため、ドクターズアシスタント（医師事務作業補助者）の定着に向け人員配置のバックアップ体制を維持し、勤務時間を延長する勤務体系等を活用することで、医師ニーズを満たした。 ・医師事務支援に係る幅広い知識とスキルを持ったドクターズアシスタントを評価するため、段階的な評価制度を継続した。 ・理事長が中心となり、定期的に近隣病院（岐阜市民病院・岐阜大学病院・松波総合病院）の幹部との情報交換会を開催し、取組状況の共有や諸課題等について議論した。	項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6	年次有給休暇 (単位：日/年)	10.9	12.8	14.4	15.2	14.9	時間外勤務 (単位:時間/月)	11.9	13.1	12.7	11.6	10.9	項目/年度	R3	R4	R5	R6	時間外勤務 (単位:時間/月)	40.91	41.04	42.38	40.30			
項目/年度	R2	R3	R4	R5	R6																												
年次有給休暇 (単位：日/年)	10.9	12.8	14.4	15.2	14.9																												
時間外勤務 (単位:時間/月)	11.9	13.1	12.7	11.6	10.9																												
項目/年度	R3	R4	R5	R6																													
時間外勤務 (単位:時間/月)	40.91	41.04	42.38	40.30																													

項目 No.	R 6 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		・特に進捗した取組 ・その他の主な取組 ・今後の課題・問題点（●）	自己 評価	評価 提案	意見
		・従来からの産業医（当院医師・副院長）による健康相談に加え、時間外・休日労働が 100 時間以上となる前に必要に応じて就業上の措置を講ずることを目的に、当該月の 15 日時点で時間外・休日労働時間が 45 時間を超えた医師を抽出し、面接指導（健康確保措置）を実施した。 ・勤務間インターバル確保（連続勤務時間制限）及び代償休息確保（健康確保措置）を可能とする勤務体制（予定勤務表の作成）となるよう、当直明けは原則休日とし、遅くとも正午には退勤するよう努めた。 ・病院ホームページに、「症状説明等（インフォームド・コンセント）の時間内実施」、「複数主治医制の導入」、「タスク・シフト／シェアの推進」について掲載（入院案内資料にも掲載）し、患者への周知に努めた。 3 職員のモチベーション向上に資する取組み ・人事評価制度により、公平かつ客観的な評価を図り、目標評価における成績優秀者にはその結果を手当に反映した。 ・職員提案箱を設置し、回収した意見を病院運営に反映した。			